柏二番街商店会50周年記念

Passage

vol.2

What's 二番街？
We Love 柏.

いままで、そしてこれからの二番街

contents

■What's 三番街?

●三番街物語 4
●Special Talk 三番街のいま、そして未来を語る 6
●Interview
バーラーナルシマ 柴井志のぶさん、佐藤直美さん 11
丸井柏店 伊藤直樹さん 12
ラケットショップキャビン柏店 末松薫さん 13
モンテローザ 野口正春さん 14
新星堂カルチェ5柏店 林憲一さん 15
ニューサンキ店 庄司慎一郎さん 16
ジュエリーツツミ柏店 伊藤こずえさん 17
柏三番街商店会事務局 小林直毅さん 18
●三番街ショップ紹介 19~22
●三番街Gourmet 23
●三番街マップ 24
●突撃!!街かど☆インタビュー 26
●三番街ア・ラ・カ・ル・ト 28
●見上げてごらん三番街の空を 30

■We Love 柏

●Interview
柏のまちづくり。いまそしてこれから 佐藤和裕さん 32
●鼎談 柏の未来を語る 石戸新一郎さん 細田真一さん 田口博之さん 34
●柏の葉アーバンデザインセンター 出口敦さん 38
●かしわインフォメーションセンター 40
●ストリート・プレーカーズ 42
●JOBANアートラインかしわ 44
●かしわ街ごとキッザニア 46
●KASHIWA WHISKY FORUM 2013 47
●ユルベルト KASHIWAX 48
●柏ア・ラ・カ・ル・ト 50
●柏三番街商店会加盟店舗一覧 51

What's

二番街？

1992年　七夕まつり

2003年　柏まつり　in二番街

2004年　二番街ウエディングイベント

2006年　二番街ジャズライブ

1993年　二番街のクリスマス

2001年　二番街ジャズライブ

1995年　アーケード完成記念　鏡開き

昭和40年、シマダ時計店前

昭和43年、柏駅東口

昭和44年、柏駅東口

二番街物語

昭和47年、快速電車停車を祝った柏おどり

昭和49年（1974）4月　二番街商店会アーケード竣工／石戸孝行氏会長に就任
〃　11月　柏高島屋開店
〃　10月　柏駅東口市街地再開発事業完工式・柏そごう開店
昭和48年（1973）9月　ファミリ柏開店・丸井柏店増床開店
〃　4月　常磐線複々線開通／千代田線乗り入れ開始／北柏駅開設
昭和46年（1971）4月　京北通り商店会を、二番街商店会に改称（会長石戸豊作）
昭和45年（1970）3月　扇屋百貨店開店（二番街）
昭和42年（1967）3月　長崎屋柏店開店（二番街）
昭和40年（1965）4月　京北通り商店会結成（会長石戸豊作）、緑屋柏店開店（二番街）
昭和39年（1964）4月　丸井柏店開店（東京都近郊都市出店の第1号）
昭和38年（1963）12月　京北ビル竣工／京北スーパー開店
昭和29年（1954）11月　柏市が誕生する
〃　石戸豆腐店開店（創業者・石戸豊作／現・いしど画材）
昭和26年（1951）5月　石戸商店開店（創業者・石戸喜一郎／現・京北スーパー）
昭和23年（1948）10月　梅林堂開店（創業者・関谷重元／現・梅林堂ビル）
昭和2年（1927）　シマダ時計店開店

江戸時代、現在の二番街商店会のあたりは、幕府の御用牧場でした。明治維新に入って「牧」が廃止され、ようやく開墾がはじまりました。このころの文化の要は流山で、柏は本当に小さな農村だったといいます。

しかし、明治29年に鉄道が開通し、柏に駅が誕生したおかげで、柏の発展が急速に進みました。当時、柏駅にはまだ東口しかなく、西口へ行くには大きな踏切りを通らなくては行けませんでした。商店も少しはありましたが、梅林や畑が広がっていて、まだまだキツネやタヌキの姿が見られる環境でした。

昭和3年になると、西口の豊四季に柏競馬場が開設され、大いに賑わいました。当時の新聞には「東洋一の競馬場」と紹介されていたほどです。翌昭和4年に、県立東葛飾中学校（現在の東葛高校）の第1期生が卒業。ようやく柏駅周辺も、まちの姿が整いはじめ、商店も誕生していきました。

このころ創業したのが、現在も二番街で店を構える「シマダ時計店」。開店は昭和2年で、現在も時計マニアから一目おかれる存在となっています。また昭和23年になると、現在の二番街の入口に「梅林堂」が開店。パンやケーキなどを販売していました。さらに昭和26年には、鮮魚の店「石戸商店」（現在は京北スーパー）、「石戸豆腐店」（現在はいしど画材）が相次いで開店。まちは賑わいを見せ始めていました。

昭和 49 年、再開発後の柏駅周辺

平成25年	（2013）	6月	二番街アーケードリニューアル工事完成
〃		11月	柏市中心市街地活性化協議会設立
平成18年	（2006）	11月	柏の葉アーバンデザインセンター開設（UDCK）
平成17年	（2005）	3月	柏市・沼南町が合併
平成16年	（2004）	10月	二番街アーケード第3期工事完成
平成13年	（2001）	10月	かしわインフォメーションセンター開設
平成12年	（2000）	3月	柏市中心市街地活性化基本計画策定
〃		10月	丸井柏店『VAT館』開店
平成11年	（1999）	4月	JR柏駅 南口開設
平成10年	（1998）	10月	第1回『ストリートブレイクKashiwa』開催（以後毎年開催）
平成8年	（1996）	2月	丸井柏店、二番街に新館オープン
平成4年	（1992）	4月	柏高島屋ステーションモール開店
平成3年	（1991）	3月	商店街振興組合柏二番街商店会設立（理事長 針 千尋）
昭和55年	（1980）	11月	カルチェ5新星堂開店（二番街／元扇屋ビル）
昭和52年	（1977）	10月	二番街に、ニューサンキ開店（元緑屋ビル）

昭和 47 年、梅林堂ビルがオープン

初代の二番街アーケード

平成 16 年、柏駅南口

そんな折、昭和30年に柏で大きな火事がおこりました。いわゆる「柏の大火」です。当時、まだ消火栓などの設備も少なく、木造家屋が多かったため被害は33世帯に及び、181人が罹災しました。しかし皮肉な事に、この大火がもとで、柏の駅前の防災化が一挙に進みました。

昭和40年代になると大型店の進出が目立ち、柏が大きく変わっていきます。大型店の第1号となったのは、昭和41年に開店した西友ストアで、昭和42年には長崎屋、昭和45年に扇屋、昭和48年には野村證券も都市銀行の進出と共に柏にやって来ました。
昭和47年から柏駅東口再開発が始まり、当時では珍しい高層ビルが2棟（スカイプラザビル・そごうビル）誕生、翌昭和48年には日本で初めてのダブルデッキが完成しました

二番街は時を同じくして昭和40年に京北通り商店会を結成。さらに昭和46年には、二番街商店会と名称を改めました。当時はまだアーケードの架かっていない商店街でしたが、生まれ変わろうとしている柏周辺の核となる商店街を目指そうと、昭和49年に千葉県では初の全蓋式アーケードを完成させました。その後、このアーケードは平成7年に建て替え工事を行い、さらに平成25年にリニューアル工事を行い、明るい透明な天蓋のあるアーケードに生まれ変わりました。

二番街のいま、そして未来を語る

SPECIAL TALK

Special talk

座談会　石戸 義行
成島 浩志
正池 謙一
松本 洋輔

アーケード改修から、もっと賑わう商店街へ

―今回のアーケード改修はどのような経緯で始まったのでしょうか

石戸：2015年に柏二番街商店会は50周年記念を迎えます。それにあわせて一新しよう、という話が発端です。アーケードができて15年経ち、そろそろ手を加えるべき時期もきている、と去年（2012年）の新年会で理事長から発案されました。

成島：私たちは3カ月に一度、二番街の事務所でランチミーティングを行い、若い世代にも加わってもらい、二番街を継続していくための勉強会をしています。その集まりの中で、まずアーケード改修工事委員会を発足し、現状を知ることからスタートしました。アーケードの現状確認、LED化した場合の照度調査のほか、良いことがあれば取り入れる目的で各地の商店街視察などを進めていきました。

石戸：とにかく新しいアーケードはどうあるべきなのかを探りたい、その一心でしたね。もっとあちこち視察して、見聞きし、勉強したかったのですが、委員会の活動は思いのほか速いペースで進行していきました。

―柏二番街商店会を客観的に知ることも必要だったのでは？

石戸：東京電機大学でアーケードを研究している方々から申し入れがあり、調査の材料として取り上げられたことがありました。その際、我々の商店街は全国的に見ても注目されている場所なのだと改めて認識しました。

成島：多い日は3万人の人出があり、千葉県内でも多くの人が集まるポイントなのですね。

石戸：電機大の方たちは都内の全蓋式の商店街なども研究するなかで、二番街について最も良い評価をしてくださったんです。アーケードそのものの造りだけでなく、まちづくり協定をつくって、都市計画的な政策を踏まえて商店街づくりをしていることに驚かれていました。この評価は、委員会のあり方について自覚させられるものだったと思います。

―改修のコンセプトはどんなことでしたか？

石戸：もっと人が通りたくなるような場所にすること。それが工事前から今後へも通じるコンセプトで、ひいては二番街の将来像にもつながっています。南口からの連絡の良さもポイントです。

成島：二番街をどうしていくかを考える、大役ですよね。D1地区の再々開発が進めば、今後環境も変わりますからね。

各地への視察、二番街の課題を知る

―視察から工事に取り入れたことは?

石戸:多数ありますが、仙台の商店街では透明色のアーケードに出合い、今回の改修工事で取り入れました。他にも、アーケードそのものの色やトップライトの色など参考になりました。

正池:透明色を取り入れて、雰囲気が明るくなりましたね。

―各地の商店街を視察するなかで、印象深かったところは?

石戸:香川県高松市の丸亀町商店街は、すごいと思いました。商店街に病院を入れたり、自転車問題を考えていたり、長期的なまちづくりの視点が息づいています。人を招くためのサービスが深く考えられていて、見習いたいと思いました。

成島:スケールの大きさを感じましたね。あれだけのアーケードを作るのは大変なことでしょう。地元で育った理事長をはじめ、商店街の人たちの「このままアーケードをダメにしてはいけない」という危機感を強く感じました。建築基準法のさまざまな縛りがあるなかで、認可されるための下準備や勉強にも熱心でした。

石戸:商店街の資金源となる事業も運営していて、我々もどうやっていこうか、考えさせられましたね。今回、関東経済産業局(以下経産局)から改修費用の助成を受けることができましたが、次の15年後に期待はできません。次回の改修費用をどのように捻出するかも課題です。

成島:商店街の中に、高松丸亀町まちづくり株式会社という会社もできていましたね。

石戸:二番街には今まだそのような体制がありませんので、まちづくり会社のような方々との交流をぜひ行っていきたいですね。

―今後もさまざまな勉強の機会がありそうですね

石戸:次の世代にはどんなものが必要とされるのか、どうやって集客できるのかを知る目的で、視察などの機会は有効だと思っています。他の商店街を見ることで、駐輪場対策など、集まって来てくれる方々のためにするべきことは何なのか、課題が見えてきます。

成島:アーケードの改修を行ったら委員会も終わり、ではなく、今後も再々開発やまちづくりについて考えていくことが必要だと思っています。

石戸義行さん
株式会社京北スーパー代表取締役社長。2013年に50周年を迎えたスーパーを父から引き継ぐ。こだわりの食材を扱うスーパーとしてテレビ等でも取り上げられる。二番街商店会の副理事長ならびにアーケード改修委員長を務める。

成島浩志さん
株式会社成島組代表取締役。家業である建設会社を引き継ぎ、一級建築士として活躍。家相建築専門工務店として、幅広いエリアで家づくりを行う。二番街商店会の理事を務める。

正池謙一さん
柏市保健所総務企画課職員。アーケード改修工事時には、経済産業部で書類作成等を担当していた。

松本洋輔さん
柏市役所経済産業部商工振興課職員。正池さんの下で関東経済産業局との対応等を引き受け、アーケードの助成金申請に尽力した。

市のバックアップで奮起した補助金申請

Special talk

―今回、経産局への補助金申請はどのようにスタートしたのでしょうか?

正池:当初は中小商業活力向上事業補助金の申請をする方向で、10月半ばごろから始動しました。その段階では改修時期は来年度か再来年度のことだと想定して、ゆっくり詰めていくつもりでした。

成島:理事会としては、経産局からの助成という考えはまだなく、補助金があるとしてもどのくらいなのかも不明でした。10月の時点からでは簡単な話しではないと思いましたし・・・。

石戸:商店街を利用する人たちが何を望むかというニーズ調査も必要で、調査を踏まえてスケジュールをどう組むかという問題もありました。

―12月2日に国の緊急経済対策が打ち出されて状況が変わったのですか?

松本:市役所としても補助金がおりる可能性にかけてみよう、という意向でしたが、必要書類の提出期限が年明けの1月11日に迫っていました。

成島:期限が迫っているのに、方向性が定まっていない部分もあって、どうしようか、と戸惑いました。今回のチャンスを逃したら次年度は条件が変わってしまうかもしれない、あるいはもっと良い機会があるのか・・・判断がつきませんでした。

正池:申請するかどうかなかなか確定しませんでしたが、熱く夢を語り合っていた状態から、皆さんの意識が高松などの視察を経て「もっと腰を据えてしっかりやろう」とさらに現実的な方向へ向かったことも感じていました。申請するとなれば全面的にバックアップする姿勢は固まっていました。

石戸:いろいろと悩んだ末、商工振興課の方が1月11日までに書類は作れます、と言ってくれたので、"じゃやろう"と奮起しました。理事長もやれとは言わないまでも、希望されていました。

松本:12月13日に経産局に直接相談に行き、翌日には申請のパターンを3種盛り込んだ提案書を作り、商店街の皆さんにお持ちしました。委員会が発足して数カ月間の蓄積もあったので、そこに申請書のためのエッセンスを加えればなんとか形にできそうでした。年末にも関わらず、経産局や商店街の皆さんが迅速に対応してくれたので良かったです。

正池:歩行者通行量を測定していたり、まちづくり協定がきちんと出来上がっていたことも幸いでした。期限ギリギリまでかかりましたが、委員会での議論のたまものだと思っています。

商店街ならではのサービス、そして今後の展開

―補助金の申請をしたことで、新しい取り組みも導入されましたね

正池：デジタルサイネージもそのひとつです。経産局から補助金のスキームとして、デジタルサイネージでどう集客につなげるのか？ 従来型の街頭テレビとの違いは何か？ などの問いもあり、双方向のコミュニケーションについて具体的に詰めることになりました。

石戸：仙台、六本木、日本橋なども視察し、それまでデジタルサイネージについては明確な展望がなかったのですが、割引のクーポン券を発行するタイプのものなどを見てヒントがつかめました。

正池：デジタルサイネージは市内各所に増えてきており、例えば二番街が柏の葉と連携するなど、面白いこともできそうです。

松本：ツイッターやフェイスブックとも連動させて、商店街ならではの情報発信もできますね。売り上げの向上をはじめ、例えば商店街主催のワインやチーズの愛好会などでも活用すれば、集客につながります。そういう使い方をする商店街は他にないでしょう。国内でも新しい試みだと思います。

正池：デジタルサイネージは、収益をあげるという攻めの発想でもありますね。

松本：当初、経産局からは事業に新規性はあるのか？など疑問視された部分もありましたが、申請が通った後は「期待していますから」と励ましていただきました。経産局のプレスリリースでは代表例として挙げられたほどです。

―市の立場から柏二番街商店会へ期待することは？

正池：二番街は駅南口から東口への回遊通路として鍵となるポジションですし、全国的にみてもこれだけ多くの人が集まる商店街はそうそうありません。今でもいろいろなイベントを仕掛けてくださっていますが、アーケードもデジタルサイネージも一新し、これからD1地区が整備されれば、さらなる展開があると期待しています。

松本：今回の補助金申請で、短期間では厳しいことをやり遂げられたのは、二番街の皆さんが頑張る覚悟を決めてくれていたからです。これだけやれば、市も全面的にバックアップするんだと、市民の皆さんにも伝わったのではないでしょうか。まちのイメージアップやまちづくりのことも考えている、柏市内はもとより千葉県内では間違いなく一番の商店街です。引き続きこのリーダーシップを持ち続けてほしいと願っています。

■アーケード改修工事のここがポイント!

①アーケードの照明を従来の水銀灯からLEDに変更（170個）

③ドレンチャー設備を新しくし、一層火災に対して安全な商店街を実現。

②屋根のポリカーボネイト製のトップライトを補強し、あわせて透明のポリカーボネイト製平板葺きにした。アーケードの支柱も塗装補強。

④アーケード内にデジタルサイネージを2台設置し、来街者に情報を提供する。

アーケード改修委員会の軌跡

2012.5.23	第一回アーケード改修委員会
2012.6.28	浅草西参道商店街等のアーケード視察
2012.8.3	アロマックラボ社視察（光ファイバーの特殊技術を持つ企業）
2012.8.22	中島龍興照明デザイン研究所訪問
2012.8.29	東京電機大学の全蓋式アーケード商店街研究会参加
2012.11.2	高松丸亀町視察
2012.12.21	地域商業再生事業第3次募集の検討会
2013.1.7	関東経済産業局ヒヤリング
2013.1.8	二番街商店会臨時総会
2013.1.11	申請書を国に提出
2013.1.13	仙台サンモールアーケード等視察
2013.1.17	スケジュールの確認と検討会
2013.2.21	事業採択報告
2013.2.21	二番街商店会会員向けアーケード改修計画説明会
2013.3.13	デジタルサイネージ検討会
2013.3.27	コレド日本橋等、デジタルサイネージ視察
2013.4.19	デジタルコンテンツ制作会社訪問
2013.4.24	事業現況報告会
2013.5.9	事業現況報告会
2013.5.28	工事引き渡し
2013.6.6	デジタルサイネージコンテンツ検討会議
2013.6.20	関東経済産業局確定実地検査終了

二番街SHOPの

O·MO·TE·NA·SHI

いつも活気にあふれる二番街商店街には、"おいしい、たのしい、うれしい"に溢れた40店舗が並んでいます。それぞれ独自のO·MO·TE·NA·SHIで、訪れる人々を迎える魅力あふれるSHOPばかり。どうぞ、お気に入りのお店を見つけてください。

Interview

パーラーナルシマ

2回、3回とリピーターが多い。スタッフが休むと「今日は店長いないの？」などとチェックが入るとか。休んでいないので病気だというと驚かれることも。

居心地の良さと、料理人泣かせの豊富なメニューが自慢

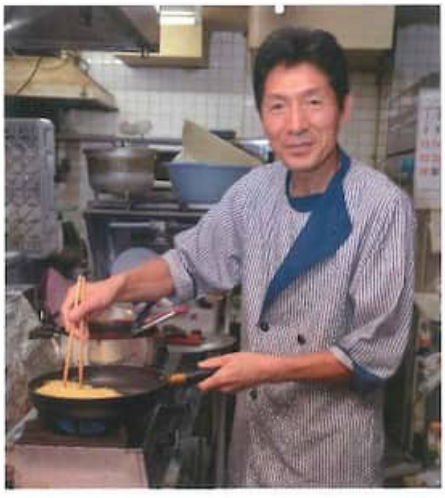
1973年に母が立ち上げ、1996年から私たち姉妹が引き継いでやってきた「パーラーナルシマ」は、今年で40年目になります。

実家の成島組を含めた、この場所で商売をしていたお店や長崎屋が共同でビルを建てることになる前まで、私たちはこの場所に住んでいました。私が小学校2年生、妹が3歳の頃でしたが、すでに二番街は賑やかで、当時は新星堂のビルが扇屋百貨店で、屋上にメリーゴーランドがあったんですよ。こちら側はどちらかというと裏道で、氷屋さんやプールもありました。その後、プールの場所は丸井の新館になり、柏駅の南口もできて、すっかり明るくなり、人の流れが変わりました。景気が良い時代だったから、お昼にはOLさんがたくさん食事にいらしてくださって、ほんとに大忙しでしたね。その頃は私も妹も、まさに子育て真っ最中で、お店と子育てが生活の両輪でした。

二人が子育て中に考えたお子様メニューなど、自分たちの『あったらいいな』とお客様のご要望をメニューに加えていったら、「メニューがドンドン増えて、料理人の方が大変になってしまった（笑）」と妹が言っているくらい、豊富なメニューを揃えています。でも、最近は自分たちの年齢と共に、胃に優しいメニューが増えていますね。

当店に来てくださるお客様はよく、「ゆっくり食事を楽しめるし、話をするのも楽しみだからこの店に来ているんだよ」と言ってくださいます。中には「季節に合わせて変わるお手洗いの飾り付けを楽しみにしています！」なんておっしゃる方もいて嬉しい限りです。

今はコミュニケーションが希薄な時代ですね。だからこそ人と人のつながりを大切にしていきたいと思っています。何よりも母の代から変わらずにずっと一緒に働いてくれているスタッフと、お客様がこの店を支えてくださっていると感謝しています。



「私たちが子どもの時から大人だった」というチーフ。お孫さんがいるとは思えないほど若い。

【プロフィール】 店長 柴井志のぶさん Shinobu Shibai 佐藤直美さん Naomi Sato

店長・柴井志のぶ／以前は実家の建設業「成島組」の経理を担当していたが、1996 年に初代店長の母から店長を受け継いだ。妹・佐藤直美／初代の頃から店の手伝いをしていたが、姉が店長になってからも引き続き右腕となり、一緒に店を支えている。

【二番街と私】「ホーム」

何より二番街にいると安心感があります。守られているという感じでもあります。困ったら誰かに相談できますし、商店街のみんなが協力的。二番街は世代が変わっても、店を続けているところが多いです。ずっとずっと活気ある二番街のままでいて欲しいですね。

パーラーナルシマ

1973 年の開業以来、おいしくてボリューム満点の料理とリーズナブルな価格で、幅広い年齢層の人々に親しまれている。ランチなどのほか、クリームあんみつやホットケーキなどのスイーツ系も注目されている。

柏市柏 1-3-1
☎ 04-7164-9981
営 10:00 ～ 19:00（貸し切り利用の場合は別途相談）
休 ドン・キホーテに準ずる

柏というまちと共に、この店も成熟する過程にある

私はまだ柏店に着任して日が浅いのですが、まずここに来て感じたのは「活気があるまち」だということです。商店街がシャッター街になっていなくて、とても健全であること。特にTXができてからは大型店があちこちに誕生していて、全国的に個店は厳しい世情ではあると思います。でも、二番街の理事長をはじめとしたみなさんの「さらに良いまちにしたい!」という熱い想いが伝わってきて、私たちも気持ちを一つにしてまちを盛り上げていこうと思いました。まちそのものが魅力的になることが、商店街の活性化につながると信じています。

前任は北千住店だったので、ターミナル駅であること、商店街が多いことなど環境が柏と似ているため違和感はあまりありません。北千住店も乗り換えの際などに利用する方も多いのですが、やはり地域の方が一番のお客様でした。柏もかつてはウラカシなど、渋谷化していた時期もありましたが、今は地域密着に変わってきているように思います。

丸井全体のスタンスも、単に若い人というのではなく、洗練された感性をもった大人の方に支持されるような方向に向かっていますが、まさに柏店も今、まちと共に成熟しつつある過程にあるのだと思います。私たち丸井柏店もお客様に愛される魅力ある店になり、商店街の一員として、柏というまちを盛り上げて行きたいですね。

私たちも、マルイ館前の屋根つき広場を、地域を盛り上げる活動に利用していただけるような提案をしていきたいと考えているところです!

Interview

丸井柏店

人気急上昇中の丸井オリジナルブランドはシューズやバッグ、スーツなど多様な品揃え。

【プロフィール】 店長　伊藤直樹さん　Naoki Ito
2013年10月1日に丸井柏店に着任したばかり。以前の所属は北千住店。同じ常磐線沿線のターミナル駅の店舗経験を活かして、さらに積極的な地域貢献に取り組みたいと考える若き店長。ファッションセンスの良さにも期待されている。

【二番街と私】「まちそのものが大きなショッピングセンター」
訪ねれば何でも揃うのが商店街であり、二番街はその理想だと思います。多種多様な店が連なり、しかもアミューズメントの要素も含まれています。そして、すごいのは、しっかり維持されているアーケードです。アーケードをリニューアルした二番街は、とても積極的にまちづくりを考えていると思いますね。

丸井柏店
1964 年に誕生した丸井柏店。いまや柏南口の顔となっているマルイ館と若者に支持されている VAT 館の 2 店で構成されている。マルイ館にはハイセンスなファッションのほか、ユザワヤ、ユニクロ、100 円ショップなどが入り、生活に密着した店舗も充実している。

柏市柏 1-1-11
☎ 04-7163-0101 営 10:30～20:00

人との結びつきを大切に、正しい知識と情報を伝えたい

「キャビン」の柏店がオープンしたのは昭和58年。初代社長と二人で大宮の本店を軌道に乗せたところで、そろそろ支店を出そうかということになり、千葉県内に出店場所を探しました。千葉市、船橋市…どこもピンと来なかったのですが、柏駅を降りたら、ちょっと大宮に雰囲気が似ていて、街中に活気が溢れているのに惹かれました。

しかも東京、埼玉、千葉、茨城の一都三県からのアプローチがしやすく、東武線沿線ということでスタッフも土地勘がある。その当時、柏には店舗物件が少なく、こんなに駅に近く、良い場所があったのは奇跡に近かったんです。めぐり合わせだと思いましたね。

全国には多くのラケット専門店がありますが、硬式・軟式テニスとバドミントンのどれかに重きを置いているところが多い。当店はそのどれかを経験しているスタッフがバランスよくいます。

私も大手スポーツ用品メーカーにいた時は、有名テニス選手のガットを張っていましたので、張る技術はアルバイトには任せられません。現在も一流選手がどうやって張っているのかなどの最新情報が入手できるので、これから世界に出て行く子どもたちとコーチのために、その情報を伝えています。

今はネットなどで流れている間違った情報を信じてしまうこともあるので、プレイヤーに正しい情報や知識を伝えてあげることで、上達する手助けになればと思っています。

やたらに商品を安く売ることよりも「人と人の結びつき」を大切にして、若い選手の力になりたいと思っています。

ガットを張る技術はプレイヤーとしての経験も必要。微妙な調整が選手の上達を促すことになる。

【プロフィール】店長　末松薫さん Kaoru Suematsu
以前は大手スポーツ用品メーカーに勤務し、一流テニスプレーヤーのガットを張るなど、世界の舞台での経験を積んできた。退職後、キャビン初代社長から招かれ、大宮店に勤務。柏店開店以来17年、柏店店長として近郊のプレイヤーから頼りにされる存在となっている。

【二番街と私】「元気にしてくれる商店街」
南口からなら雨に濡れずに来店できるので便利ですね。柏近郊の中高生がたくさん来てくれますし、全日本で優勝した子など、強い選手も多いです。二番街は人の流れが集中しているように思いますし、デパートの中を歩いているのとは違う、安心感がありますね。

ラケットショップ　キャビン柏店
硬式・軟式テニスとバドミントンのラケット専門店。大宮が本店で支店は柏店のみ。経験豊かなスタッフが揃い、ラケット選びからメンテナンスまで対応。ラケットも種類豊富に取り揃えられ、ガット張りの微調整など、細かなリクエストなど相談が可能。

柏市柏1-2-35　共同ビルサンシャ地下1階
☎ 04-7166-7756　営 10:00～20:00
休 無休

Interview

ピッツァ＆スパゲッティ専門店モンテローザ

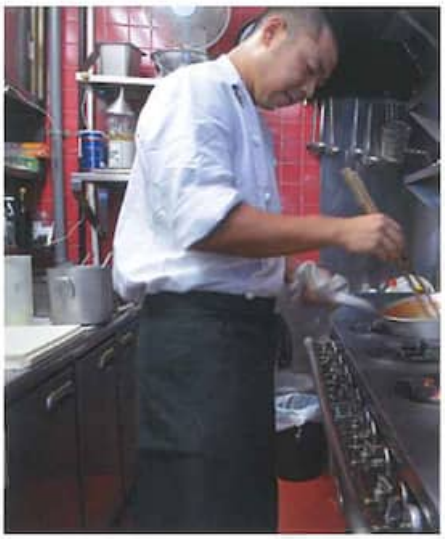
50周年に向けて、期待を裏切らない店づくりを

柏で生まれ育った僕は、小さい頃からアーケードのある二番街に行くのが楽しみだったし、高校生の時、映画を観るなら柏でした。その当時、「モンテローザ」はジャズのかかった喫茶店で、食事メニューは軽食を出しているくらいだったと記憶しています。

社会人になって柏そごうのイタリアンをスタートに、都内のレストランなど大きな会社の中でいろいろな経験を積んできました。6年前、やっぱり地元で働きたいと思い、柏に戻ってきました。

毎日ここで暮らすようになって思うのですが、柏は『自分たちから仕掛けていく』という姿勢のまちだなあ…と。ウラカシ、アートライン、キッザニアなど、いつも何かしらやっていますよね。今はSNSで情報発信ができるので、かなり広範囲まで呼びかけができます。当店でも毎週のようにライブを行っていますが、やはりブログやツイッターなどでイベント情報をお知らせしていますし、お客さまもそれを見て来店される方が多いですね。

とにかく僕は、これからもスタッフともども健康で、この場所で長く店を続けられればと願っています。そのためには期待を裏切らない店づくりを行っていきたい。僕の後に若い人が続いてくれれば、「モンテローザは100年なんだ!」と言われる日がくるかもしれません(笑)。今年で47年を迎えた「モンテローザ」は50年まであと3年。二番街で50年ってすごいですよね!



息がぴったりのスタッフのみなさん。

【プロフィール】マネージャー 野口 正春さん　Masaharu Noguchi
1966年に柏で生まれ、柏で育つ。都内のイタリアン、フレンチ、スペイン料理店などで多様な経験を積み、2008年より「モンテローザ」のマネージャーに就任。

【二番街と私】「青春の一部。ふるさとみたいな感じ」
理事長がいろいろと企画し、呼びかけて、さらにみんなが協力する。息がぴったりあって、いつも時代の最先端をいっています。フラッグをかけるなど、個店では発信できないことも商店街のチームワークならできます。ずっと一緒に歩んでいきたいですね。

ピッツァ＆スパゲッティ専門店モンテローザ
昭和41年の創業以来変わらずに"食材にこだわる"。柏産の食材も多く採り入れており、生地から作るピッツァや乾麺または生麺をセレクトできるパスタが評判。

柏市柏1-4-3
☎ 04-7166-2611
営 日～木曜 11:00～21:30 (LO)
　 金・土曜 11:00～22:00 (LO)
休 無休

新星堂カルチェ５柏店

沿線随一の品揃えと個性的なCDコーナーが自慢

柏は下町のような気さくなまち。時間帯によって違いますが、大人のお客様が多いように思います。幅広い品揃えの中からセレクトできたり、個々のアーティストを深く掘り下げて探すことができる、まとまった規模のCD販売店が常磐線沿線にはあまりありません。品揃えでは当店が沿線一番だと自負しています。

私が担当のクラシックでは、テレビで話題になった新譜などが、今とても売れています。昔からの定番・名盤を求めたり、誰の指揮でこの曲が欲しいなど、こだわる方も多いですね。

また、柏や松戸はブラスバンドに力を入れている学校が多いので、指導者の方や学生さんが、大会などで演奏するための曲を探せるようにブラスバンドのコーナーを設置しています。そこには受賞した学校の演奏が入ったCDなども置いているんですよ。隣の山野楽器で譜面を購入できるという相乗効果もあるのではないでしょうか。

それから演歌系にも強くて、新曲の発売日に開店を目指して来られる方、カラオケが趣味の方など、ふらっと覗いて行かれる方も多いですね。時折、1階エントランスでアーティストのライブや握手会、サイン会などを開催していますが、これがとても好評です。

商店街の中なので車もほとんど通らないし、お店の前で催しができるのは二番街ならでは。アーティストによっては、ものすごい数のお客様が集まります。ファンの方は、わざわざ遠方からでもいらっしゃいますので、商店街自体も賑やかになりますね。

これからもずっと地域密着型の沿線一番店として頑張っていきたいと思っています。

柏店名物「ブラスバンドコーナー」では、近隣の強豪校のCDも販売している。

新星堂カルチェ５柏店
2階はCD、3・4階が書籍売り場となっている。J-POP、洋楽、演歌、クラシック、映像など各ジャンル別の担当者がそれぞれの趣向と工夫を凝らしてコーナー作りをしている。特にクラシックや演歌に関しては、その通好みの品揃えにファンも多い。

柏市柏 1-2-31 新星堂カルチェ5 2階
04-7164-8760
営 10:00～21:00
休 不定休

【プロフィール】林 憲一さん Kenichi Hayashi
2012年7月に玉川高島屋店から柏店に異動。高校時代は合唱サークル、大学時代はクラシック鑑賞サークルに所属していたほどのクラシック愛好家。その豊富な知識をかわれて CD クラシック部門を担当している。

【二番街と私】「日常生活の場所」
二番街で「達人塾」を開催した時に講師を務め、簡単な聴き比べをしながら、指揮者による演奏の違いを説明し、お客様にとても喜んでいただきました。それが縁でクラシックソムリエとしてテレビにも出演しました。今後も地域の方との交流を深めていきたいですね。

鮮度のいいファッションを、ロープライスで

柏のニューサンキ店に来たのは1年半ほど前からです。サンキは『若い人でも自由にいろいろなことに挑戦していいよ!』というスタンスの会社で、社員に限らず、パートやアルバイトさんも含めた現場の人間の意見を尊重して、実現させてくれます。その企画が良ければ他店でも採用されることもあるので、大きなヤリガイになっていますね。

また、売り場はもちろん、本部のバイヤーもどんどん女性が増えていて、"女性の職場"という感じが高まっています。10代の人も多く、フレッシュな雰囲気です。

以前所属していた十余二店は、車で来店されるファミリーが多く、布団がよく売れていました。ほとんどの店舗は地域密着型で、総合的な売り場が基本の郊外店ですが、ここは柏駅に近く、しかも商店街の中。ニューサンキ店と柏店だけは品揃えが他とは違っています。新規のお客様も多く、特に若い世代の方は、初めて来店してくださる方が増えています。

"鮮度のいいファッションを、ロープライスで"が同店のポリシーで、とにかく価格が安いので、口コミなどやネットなどでも、見つけてもらえているようです。個人的には、もっと20〜30代のお客様に喜んでいただける提案をしていきたいと思っています。例えば30代のお母様が、お子様の買い物に合わせ、自分のものもじっくり選んでいただけるような店づくりを目指したいですね。もちろん商店街の一員として、一緒にまちを盛り上げていきたいです。現在工事中の隣の再開発なども弾みにしたいですね。

ヤングファッションの「elf mode」、中学生くらいからの紳士物の専門ブランド「Vex」をはじめとして、婦人雑貨、肌着、子供服、紳士物など豊富な品揃え。

ファッション市場サンキ ニューサンキ店

鮮度の高い、活きのいいファッションをロープライスで提供。気軽に誰にでも愛される"ファッション市場"というストアコンセプトのもと、関東圏のみならず、信越や九州などに出店している。1956年創業、現在206の店舗を持つ。柏が本社で1号店は柏店。ニューサンキ店は1977年に開店の12号店。

柏市柏1-4-7
04-7164-3505
営 10:00〜19:00
休 無休

【プロフィール】主任 庄司 慎一郎さん Shinichirou Shoji
サンキに入社して7年目。途中、ペット業界に2年間転職していたが、サンキが忘れられずに戻ってきた。2012年4月に十余二店からニューサンキ店の主任に配属される。

【二番街と私】「柏そのもの」
二番街は柏の中で、いつも元気じゃないといけない場所です。二番街のお客様の年齢層はとても幅広いですが、当店は若い人の集客が多く、今後もそうありたいと願っています。デジタルサイネージに定期的に参加したり、柏祭りなどのイベントにも参加しています。ずっと一緒に歩んでいきたいですね。

地域密着型の路面店は「人の力」がすべて

柏店は開店20年以上経つ、ジュエリーツツミの中でも古くからある路面店です。私が初めてこの柏店に来たのは18年前、当時はラーメン屋さんやお団子屋さんなどの個人店がたくさんありましたね。その当時から何度も来てくださっているリピーターのお客様も多く、今でもずっとお一人お一人と長いお付き合いをさせていただいております。また、この店の特徴は、ショッピングセンターにある店と違って、土日と平日の来客数の違いがあまり無いこと。ここを目指してきてくださる方がほとんどで、とてもありがたく思っています。ジュエリーというと高級なイメージで、そういう商品も揃えておりますが、見ていただけばわかるように、実はかなりリーズナブルな商品が多いのです。『ジュエリーを日常に』をコンセプトとしており、若い方でも無理なく購入いただける価格の、普段使いのジュエリーをたくさんご用意しておりますので、気軽に覗いてみてください。

また私自身、「ジュエリーは買っておしまい」ではなくて、そのジュエリーでつながった人と人のご縁を大切にしていきたいと思っています。例えば、ツツミのエンゲージリングの写真を結婚式のビデオで使ったと嬉しい報告をしてくださるお客様や、「今日はおしゃべりをしに来ただけよ」といって寄っていってくださる方もいて…。ずっと人と人のコミュニケーションを大切にしてきたからこそ、今までやってこられたのだろうと思っています。これからも、二番街の中の親しみやすいジュエリーショップとして皆様にかわいがっていただけたら嬉しいですね。

丁寧な接客が信条の伊藤店長。何気ない会話の中に、暖かさが感じられる。

【プロフィール】店長　伊藤こずえさん
Kozue Ito
ジュエリーが大好きでこの仕事に就く。入社２年目で柏店に配属され６年、その後御徒町店に３年、また店長として柏店に戻り 10 年目となる。毎年新人教育を任されている、社内での人望も厚い女性店長で、「共に頑張ってきたスタッフがキャリアアップして各店に巣立ち、新天地での活躍を見るのが楽しみです」と語る。

【二番街と私】「第二のふるさと」
ずっと仕事ばかりしてきたので、正直言って、家よりも二番街に居る時間の方が長いと思います（笑）。二番街は多様な店が並んでいるので、お買い物が便利なのは言うまでもありませんが、特に薬局などは競合店が多いためか価格がとても安くて助かりますね。

ジュエリーツツミ柏店
自社工場を持ち、海外で大量の宝石の買付けを定期的に行うことで高品質低価格を実現しているジュエリーツツミは、全国に 182 店の宝飾専門店を展開している。気軽に立ち寄れる居心地の良い店として多くのファンを持つ柏店は、20 年の歴史をもつ路面店。

柏市柏 1-4-5
TEL 04-7162-2103
営 10:00～20:00
休 無休

人が中心のまち・柏。こんな“まち”はなかなかない！

Interview

柏二番街商店会

私が柏二番街と出会ったのは21年前。当時はアーケードのリニューアルとビルの建替えという2つの事業がありまして、そこに、当時勤務していた商業コンサル会社から担当を命じられたのがお付き合いの始まりです。"ソコソコ栄えているまち"という印象は受けましたが、柏駅周辺には居酒屋も規模が小さい店しかなく、まだこれからだなと。ですから、新しく出来るビルには、もっと規模の大きな店に入っていただきたいと、東京に本社のある企業に出店のお願いをしました。その時、東京においての柏の知名度の低さに衝撃を受けまして…これはいけない！ もっと柏というまちを、外に向けてアピールしなくてはと思いました。

1995年にアーケードの建替えが終わり、同じ年には柏レイソルがJリーグに昇格して、ようやく柏が全国的に知られるようになりました。そのあたりからストリートブレイカーズやアートライン柏など市民発祥のイベントが活発になっていきました。柏の人たちのすごいところは、「まちのために何か行動を起こそう」という参加意欲がとても強い上に、横のつながりが固いこと。ベッドタウンであるにもかかわらず、そういう気質の人が多く、口コミなどであっという間に盛り上がるんです。最近では飲食店が中心に企画している、ユルベルトKashiwaxという食べ飲み歩きイベントが開催されていて、毎回たいへん賑わっていますが、よその街で紹介したら、「ありえない」と言われました。また、市役所や駅前の大型店さんが、揃ってまちづくりに協力的であることも他の地域ではあまり見かけないことだと思います。イベントにも積極的に参加してくれますし、まちとしての"一体感"を感じますね。

本来、私が商業コンサルの世界に入ったのは、故郷・函館のまちをなんとかしたかったからです。縁あって柏のまちにどっぷり漬かっていますが…まちづくりって、地元を知っている人間が"まち"を良くしていくものなんじゃないかなと思っています。

アーケードを持ったことで街区としての一体感を感じる二番街。フラッグの設置やイベント企画などのソフト部分を一生懸命続けてきたことが、今の賑わいを生んでいる。

【プロフィール】事務局長　小林直毅さん
Naoki Kobayashi
函館市出身。函館では車の販売会社でイベント企画を担当していた時にコンサルという仕事に出会う。35 歳で東京の商業コンサルの会社に転身。1992 年に柏二番街商店会のコンサル担当者となり、柏のまちづくりに深くかかわることとなる。1994 年、（有）いしど画材に入社。かたや二番街商店会の事務局長として二番街を陰で支えている。

【二番街と私】「自分自身」
柏に来てから21年、以来、ずっと苦労や楽しみをそばで見続けてきているから、いつのまにか故郷・函館よりも、柏二番街の方が自分自身に近い存在となってしまっています。とにかく二番街は結束が固いのが特徴で、お互いに信頼しあう、まとまりのある商店会だと思います。

柏二番街商店会
柏市柏 1-4-5
☎ 04-7167-3131

まだまだあります魅力のお店！ Check it out!!

「かわいい」を楽しむ。旬なインナーを探すならここ

お洒落でかわいいインナーを楽しむ女性に人気のAMO'S　STYLE。下着メーカートリンプが確かなクオリティと手ごろな値段を実現。店内には色柄も豊富で、見るだけで気持ちが上向く商品がラインナップされています。二番街アーケードの入口に位置する同店は、スタッフの数も来店客数も多く、全国でも賑わう大型店。担当スタッフがひとり一人の体型診断表を作成して補正ポイントを分析してくれます。

AMO'S STYLE 柏東口梅林堂店

二番街の入口にある店として、明るく活気ある雰囲気作りを心がけています（店長の柳原さん）

☎ 04-7168-8051　営 11:00～21:00
休 無休

本格派の中華料理を、リーズナブルに楽しめる

2010年10月オープンのニューフェイス。本格的な広東料理を提供し、皮から手作りした餃子や海鮮料理など、お勧め料理が充実しています。ランチは7種あり880円より。20食限定の日替わり定食はお得な680円です。夜はALL500円のワンコインメニューもあり、種類豊富なお酒を楽しみながら、あれこれチョイスするのがお勧めスタイル。店内には個室感覚のテーブル席もあり、貸切パーティもOK。

佳佳苑（よしよしえん）

いつも賑わう二番街に店を出したいという念願が叶いました（店長の林さん）

☎ 04-7128-6625　営 11:00～15:30　17:00～24:00（LO23:00）　休 不定休

生活の定番品。わが街のドラッグストア

医薬品、健康食品、コスメ、日用消耗品を中心に販売するおなじみのドラッグストア。どの時間帯も買い物客がひっきりなしの二番街店は、陳列棚が高めで、自由度とセルフ性が高いのが特徴です。「2012年にオープンし、まだ新顔ですが、二番街の一部となり一緒に発展していけるよう頑張りたいです」と店長の後藤さん。明るい照明の下、間口も広く活気あふれる店内の様子が通りにも伝わってきます。

マツモトキヨシ　柏二番街店

幅広い客層のニーズに応えられるよう、豊富な品揃えを目指します（店長の後藤さん）

☎ 04-7168-2122　営 10:00～22:00　休 無休

アジアンリゾートに癒されながら、ストレスを解消

29店舗を構えるカラオケマック。ライブDAMやジョイサウンドF1などの最新機器を導入し、幅広い世代に人気のカラオケ店です。33個室を備える柏店はアジアンリゾートの雰囲気にまとめられていて、計50種以上の豊富なメニューを誇る料理にもアジアンフードを用意。ドリンクも100種以上あり、歌い、食べ、飲んで楽しめるお店です。お子様メニューもあるのでご家族での利用にも好適です。

カラオケマック柏店

お客様の立場にたった接客を心がけ、居心地のいい店づくりに努めています（店長の千葉さん）

☎ 04-7163-0070　営 24時間　休 無休

"安全はおいしい"　情報発信型スーパーマーケット

安全・安心をモットーに、生産者の顔が見える商品を中心とした品質重視の品揃えと、洗練されたイメージで人気のスーパーマーケット。確かな素材で作る惣菜やお弁当も味に敏感な主婦に支持されています。マイバッグ持参のエコロジーポイントや優待の割引など特典が付与される買物ポイントカードも好評。生産地を取材し情報をHPで詳しく紹介するなど、食に対する積極的な姿勢が光るお店です。

KEIHOKU　柏店

旬のおいしいものを食べたいという期待を裏切らない品揃えを心がけています（店長の西窪さん）

☎ 04-7166-1191　営 10:00～20:45
休 年始のみ

映像・音楽・活字をより身近に！　若者文化を応援

新星堂カルチェ5の地下にあるDVD、CD、コミックのレンタルとゲーム、雑貨を販売するTSUTAYA。近隣のロードサイド店とは異なる駅近の立地で、客層も学校帰りの10代後半から20代半ばの若い世代が中心。「雨にも濡れず、通学・通勤の帰路に気軽に寄ってもらえる立地が特徴です」と店長の高田さん。CDレンタルの在庫量は県下一番を誇っています。アニメ好きのお客様も多く、レンタルコミックも充実。

TSUTAYA　柏駅前店

若者世代が多い店舗なので、明るい雰囲気、楽しい接客を心がけています（店長の高田さん）

☎ 04-7168-9101　営 10:00～深夜2:00
休 無休

ゆったりとした店内、気持ちのいい接客で差別化を図る

書店がひしめく柏駅エリアの中でも、大きなスペースを誇る書店です。「本は定価販売ですから価格で勝負できません。気持ちのいい店作りや親切な対応などで、お客様に喜んでいただける書店を目指しています」と店長の厚澤さん。2フロアに分かれる店内は、通路などもゆったりと確保され、低めの書棚で本も見やすく、探しやすいと好評です。若い世代に対応して、コミックやライトノベルも充実しています。

新星堂カルチェ５柏店

二番街で30年営業しておりますので、常連さんが多く、お客様に支えられているお店です（店長の厚澤さん）

☎ 04-7164-8551　営 10:00～21:00
休 元旦のみ

楽器のことなら何でもお任せ。豊富な種類を誇っています

駅に近く、学生から大人の方まで幅広い客層の店舗です。電子ピアノは10万円台から用意。豊富な種類を誇るギターは、初心者向けなら1万円台から購入可能です。音楽人口の多い柏ならではの品揃えで、山野楽器オリジナルサックスなどの楽器や楽譜も多彩です。9名のスタッフは研修などを積んでおり、商品知識も豊富。楽器に関することなら、何でも安心して尋ねられるお店です。

銀座山野楽器サウンドクルー柏

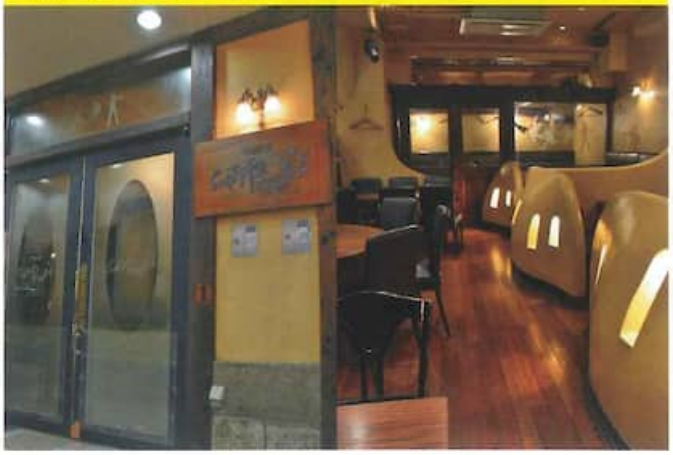
明るい接客に心がけています。電子ピアノなどは気軽に弾いてお確かめください（店長の伊藤さん）

☎ 04-7164-8770　営 10:00～21:00
休 元旦のみ

飲んで食べて楽しめる　“ほっ”とな空間

店内中央の暖炉や、かまくらをイメージした丸みのある柔らかな色調のインテリアが居心地の良さを演出。オープンキッチンの厨房から見渡せるアットホームな雰囲気は、パーティなどにもぴったりです。厳選されたワインと、100種類以上のカクテルが女性客にも人気。カクテル作りのパフォーマンスや記念日には歌や花火のサプライズなど、スタッフのスペシャルなサービスも自慢です。

サプティペパーズ



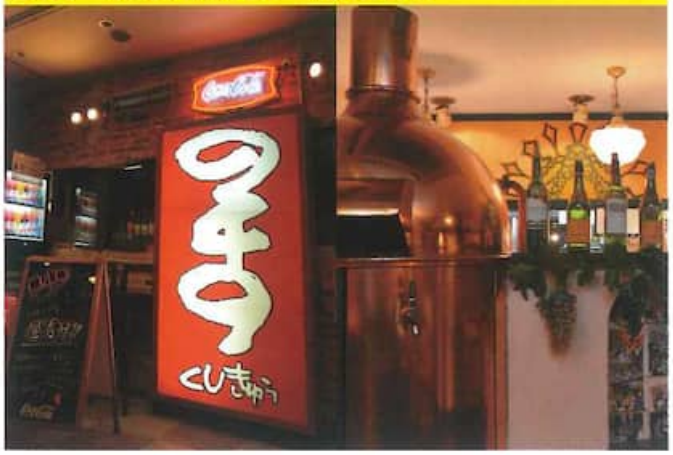
店内奥は扉を閉めれば個室の空間としてご利用いただくことが可能です（店長の黒澤さん）

☎ 04-7165-1515　営 11:00～15:30　17:00～深夜0:00
※日・祝日は 11:30～　休 無休

ワインと創作料理を楽しむ　無国籍バル

イタリアン、フレンチなどワインに合う創作料理が人気の無国籍ワインバル。16時まで設定されたランチタイムのメニューは500円のワンコインプレートをはじめ、どれもリーズナブルで種類も充実。リピーターが多く、近隣の会社員やショップスタッフにも定評があります。店内は席数も多く落ち着いた大人の雰囲気。女子会やパーティなどお得な価格設定のコースメニューも各種用意されています。

949　KUSHIKYU　柏東口店



ボリュームもありワインにもぴったりの料理を各種ご用意しています（店長の知久さん）

☎ 04-7166-7094　営 11:00～15:00　17:00～23:00
※金・土・祝前日は～24:00まで　休 火曜

ライフスタイルを足元から応援。元気印のシューズ店

全国で800店を超えるシューズ専門店ABCマート柏店は、2003年に二番街にオープンしました。パンプスやサンダル等トレンド要素の強いレディスシューズから、ビジネス靴、ウォーキングシューズ、スニーカーなど幅広い年齢層のニーズに応える品揃えなので、靴を買いたいときは、まずは訪ねてみるのがお勧め。店内いっぱいに品物が並び、お店からは元気な声が今日も二番街の通りに響いています。

ABC マート　柏店

明るいスタッフの接客が当社の元気の秘訣です（店長の渡来さん）

☎ 04-7165-0802　営 10:00～20:00
休 無休

ふりそでに「新しい」を…安心のパーフェクトサポート

品質はもちろん、価格とサービスを充実させ、晴れの日の衣裳をコーディネイトしてくれる振袖専門店。振袖だけでなく袋帯・帯メ・帯揚・重ね衿など和装小物のフリーチョイスも可能なので自分らしさを表現できます。前撮り撮影と成人式当日の支度が含まれたセット価格なのも安心。「ベテランスタッフが、お嬢様の好みやご家族のご意向を伺いお手伝いします。衣裳に合せたオリジナルネイルプレゼントも好評です」。

ふりそで工房　柏店

振袖は、現場スタッフの声を採り入れて、豊富な色・柄を仕入れています（店長の山田さん）

☎ 04-7168-2350　営 10:30～18:00
休 水曜

描く楽しさに出合える、二番街の老舗画材店

絵画材料、紙類、額縁、デザイン・コミック用品、筆、ペン先など多彩に揃えた画材の専門店。地域に画材店が全くなかった40年以上前にオープン。店内の一角ではアート講座も定期的に開催しています。店先の通路には所狭しと個展やサークル紹介などが掲示され、来店者が足を止めて眺めるのが日常の光景です。絵画修復も受付けており、長きにわたり地域の絵画人口を増やす役割を担っています。

いしど画材

いしどアートスクールでは多くの方が絵画に親しみ、学んでいます（店長の吉田さん）

☎ 04-7167-1410　営 10:00～19:00
休 無休

時間を忘れて宝探し　個性的な品揃えが魅力

「便利さ・安さ・楽しさをお客様に」をモットーに、食品から消耗品・雑貨、家電・インテリア、ブランド品、バラエティグッズなどを多種多様に展開。ユニークな演出を施した遊び心のある売り場は、深夜まで買い物客で賑わっています。オープンは2008年。「二番街はアーケードがあり、明るく、安心して買い物ができるので来店客数も多いです」。駅前型立地を生かし、終電まで安心して買い物が楽しめます。

ドン・キホーテ　柏駅前店

楽しい時間のお手伝いを心がけています。バラエティグッズも人気です（店長の江川さん）

☎ 04-7162-7811　営 1F／9:00～深夜 1:00　2F・3F／10:00～深夜 1:00　休 無休

自然・人が融合する「家相建築」で吉相の家づくり

二番街と共に歩んできた成島組は、良質な家づくりと家相建築にこだわる住宅企業。家相建築は、住む人の干支や方位をもとに導き出すもので、自然のエネルギーを享受できる安心・安全な住まいです。同社では耐震性・耐久性はもとより建築素材にもこだわり、エコで健康に暮らせる住まいを提案しています。親切な対応、細部まで行き届いた配慮で、満足度の高い住まいが実現できます。

ー家相建築専門工務店ー成島組

資金計画からプランニング、収納やインテリアなど、住まいのことなら何でもお気軽にご相談ください（鶴野さん）

☎ 04-7164-7361　営 9:00～17:00
休 土・日・祝日

市民の資産を守る、まちの相談役

当初二番街の入口にあった野村證券が、店舗拡充のため現在の位置に移転したのは2006年。柏支店は来店客数、預かり資産共に社内でも全国トップクラス。「金融リテラシーが高い柏のお客様の資産を守るために、これからも様々なご相談にお応えしてまいります」（支店長・中地修さん）。支店内で開催されるセミナーは、個人投資家だけでなく女性や若年層向けのものもあり、すべて参加無料で行われています。

野村證券　柏支店

店内はプライバシーに配慮されています。NISA（少額投資非課税制度）などのご相談もお気軽にどうぞ（中馬さん）

☎ 04-7163-2011　野村コールセンター 0120-00-8657
営 9:00～15:30　休 土・日・祝日

二番街 Gourmet

バーラーナルシマ

豊富なメニューはどこか懐かしく、食欲をそそられる料理ばかり。3時のおやつは、同店の「クリームあんみつ」と決めているミセスもいるらしい。

いま人気の「マウンテンホットケーキ（1000円）」も、ナルシマなら並ばずに食べられます

「ミートソースカツレツ（950円）」はカリッと揚がったカツとミートソースが絶妙！

モンテローザ

創業以来、食材の良さをモットーに、KEIHOKUや柏の生産者から直送で仕入れた野菜等を使用しています。

「季節野菜とベーコンのトマトスープスパゲティ 1000円」

モンテセット（+600円）にすると、サラダ、ドリンク（コーヒー又は紅茶）、ドルチェ（4～5品の中から選べる）が付きます

佳佳苑

本格派の広東料理が、リーズナブルに食べられます。メニューの数も豊富なので、どれにするか迷いそう。

海老のぷりぷり感がたまらない「大エビのマヨネーズあえ（1239円）」

サブティベバーズ

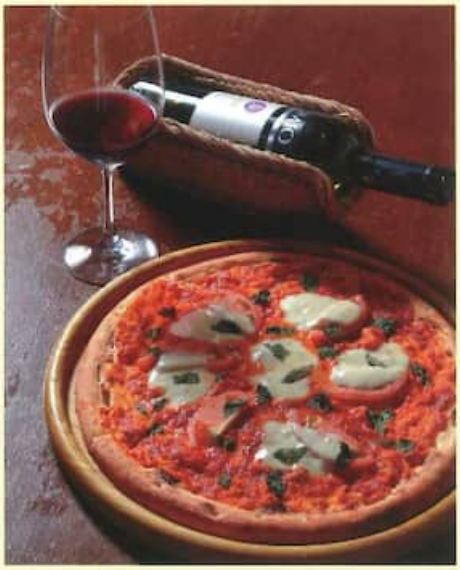
自慢のワインセラーに並ぶワインのほかカクテル等も100種類以上。オリジナルの創作料理を楽しみながら楽しい時間を過ごせそう。

「マグロとアボカドのカルパッチョ 880円」

「炙りサーモンとアボカドのフレッシュ野菜春巻き 680円」

949（くしきゅー）

舌で目で、旬を味わえる創作料理が勢ぞろい。誕生会などにはサプライズのプレゼントもあるらしい…



ボリュームもありワインにもぴったりの「ピッツァマルゲリータ（1344円）」

柏二番街商店会

見て、食べて、学んで、飲んで…アーケードの下にはたくさんのお店が並び、いつも賑わいをみせています。笑顔があふれる柏二番街商店会は、元気になれるストリートです。

●ニューサンキ

●いしど画材ビル
サブティペパーズ
909 KUSHIKYU(くしきゅう)柏東口店
ジュエリーツツミ
ABC-MART 柏店
詰らい処 坐・和民柏東口二番街店
MEN'S TBC柏店
ふりそで工房
いしど画材
柏二番街商店会

●KEIHOKUビル
モンテローザ
KEIHOKU柏店
新生銀行柏支店
黄金の蔵ジパング 柏東口店
まんがランド柏店
京北ホール

●野村證券柏支店

Map

●丸井柏店

●システムランドビル
PIA柏店(パチンコ館)
丸亀製麺柏駅南口店
サカゼン(紳士服)
ドコモショップ柏駅南口店

●J・Yビル
サイゼリヤ柏南口店
セブンイレブン柏駅南口店

●谷川ビル
PIA柏店(スロット館)

●長崎屋共同ビル
ドン・キホーテ柏駅前店
パチンコ楽園柏店
家相建築専門工務店(株)成島組
バーラーナルシマ
吉田不動産(株)

●新星堂ビル
TSUTAYA柏駅前店
サンドラッグ
新星堂カルチェ5柏店
銀座山野楽器サウンドクルー柏

●柏グランド東京会館
マツモトキヨシ柏二番街店
カラオケマック柏店
まんが@カフェGeraGera柏店

●シマダビル
シマダ時計店
マクドナルド柏店

●共同ビルサンシャ(サンシャビル)
ラケットショップキャビン柏店
AMO'S STYLE(アモスタイル)柏梅林堂店
富士そば柏店
モバワン柏二番街店
中華佳佳苑

Passage

二番街

柏駅南口

柏駅東口

突撃!! 街かど★インタビュー

早朝から深夜まで多くの人が行きかう二番街のアーケード。1日の来客数は約3万人ともいわれています。学生さん、お子様連れのママたち、楽しそうな家族連れ、熟年世代の方など多世代に愛される二番街商店会の魅力を、アーケードでインタビューしてみました。

「毎朝、二番街のアーケードを抜けて散歩を楽しんでいます」という園田さん。二番街は楽しく歩けるストリートです

「柏の高校に通っているので、二番街はよく遊びに来ています」という仲澤さんと秋山さん。今日はどこのお店がお目当て？

「二番街には毎日来ています」という沼田さんと新里さん。二番街は活気があって大好き！と語ってくれました

5年前にパキスタンから柏に引っ越してきたというアハマドさん一家。「柏二番街は、いつも買い物に来ています！」

「二番街といえば今夜のおかずよね」と話してくれたのが川口さんと城地さん。今日はスポーツジムの帰りです

「子どものおやつは二番街に買いに来ます。子ども連れでも安心して歩ける商店街ですね」と栗原さん

「今日はプリクラを撮りに来た」という中学生3人組（佐藤さん、油原さん、石野さん）。先週も来たし、昨日も来た、という二番街フリーク

「高校生の頃から、買い物するのも遊ぶのもいつも二番街だった」という村上さん。今日は久しぶりにいらしたのだとか

「ヘアケア用品も服も靴も二番街で揃えています」というOLの小田さん。二番街ファッションが決まっています

「子どもの洋服や雑貨などは二番街で買っています」という伊藤さん。雨でも傘がいらないので、子ども連れには優しい商店街とも

「若いころは、マックで食べて、ボウリングをして…二番街はまさに青春そのもの！」という平野さん

二番街
ア・ラ・カ・ル・ト

二番街100%活用法

もともとは京北通り商店街という名前だった二番街商店会。1971年に改称することになり、当時の商店会長が、「いつでも謙虚に、いつかは一番になれるよう挑戦し続ける気構えが大切」と語り、常に一番を目指す"二番街商店会"になったのだそう。

多目的に利用できるホール

京北ビル6階にある「京北ホール」は、音楽発表会、サークル活動や展示会、会議、忘年会などに利用できる多目的ホール。約106㎡の広さを誇り、収容定員は100名。ピクター製の最新機材や、音質の良さで高い評価を得ているBechstein(ベヒシュタイン)社のピアノが設置されています。楽屋もあり、下階のKEIHOKUからのお弁当の取り寄せやデリバリーも可能です。
事務局　TEL04-7163-6672

二番街情報をデジタルサイネージでチェック

アーケードの入口にある新生銀行前とドン・キホーテの建物横にデジタルサイネージ(電子看板)が設置されました。お得で楽しい情報が流れているので、チェックしてみてね。

新生銀行前

ドン・キホーテ前

二番街で似顔絵を描いてもらおう

二番街のいしどビル前で、毎週土曜日の14時～18時の時間帯に、似顔絵を描いてもらうことができます。これは、柏市出身の絵師で日本画家の福永明子さんが行っているもので、子どもは1枚1000円、大人は1500円。15分程度で描き終えるので、記念に1枚いかが?

お車での買い物の時は

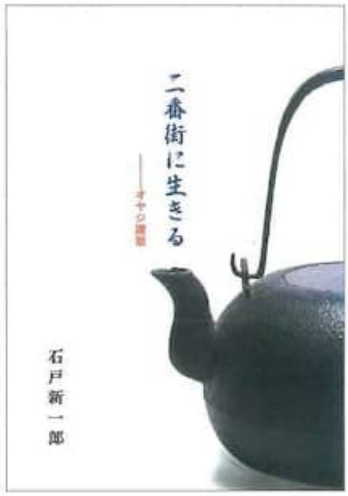
二番街商店会特約駐車場があります。
①ザ・柏タワースクエア駐車場
②柏市市営駐車場
③島田第一駐車場
の3箇所です。3000円以上のお買いもので2時間まで無料です。

達人塾を開催

地域の一番店が集まり、その道の達人が多い柏二番街商店会。2013年6月には新しいアーケード完成を記念して、サンケイリビング新聞社とコラボした「二番街達人塾」が開催されました。"介護下着のあれこれ　寝たまま着替えもできる"(ニューサンキ)、"ティーンズのための浴衣に合うヘア&メイク講習会"(ふりそで工房)、"イタリア料理とは? 見て、聞いて、味わう"(モンテローザ)など6講座が開催され、多くの受講生で賑わいました。

「クラシックよもやま話」(新星堂カルチェ5)

爆風スランプの歌「KASHIWA マイ・ラブ」には二番街のモンテローザが登場しています。柏市限定のリリース版「新柏一二番街デート編」という歌もあるとか…。
柏中央図書館に行くと、石戸新一郎さんの「二番街に生きる」という本も開架されています。



コインロッカーをどうぞ

二番街にもコインロッカーがあるんです。アーケード内のマツモトキヨシ横に設置されています。

証明写真も撮影できます

学生が多い二番街。証明写真を撮らなくては‥‥という時には、丸井柏店の西側入口に設置されています。

二番街で宝くじも買える

夢を買う"宝くじ"。二番街にも売場があります。ドン・キホーテの建物横にあり、18時30分まで営業しています。

車椅子でも安心してお買い物

柏市福祉部障害福祉課で作成した車椅子マップにも紹介されたように、二番街は車が原則通らないので車椅子やベビーカーでのお買い物も安心。いしどビルには車椅子対応のエレベーターやトイレを設置。ドン・キホーテのようにスロープや車椅子用の昇降機が設けられた店舗もあります。

二番街各ショップにお得なポイントカード

KEIHOKUやいしど画材、ラケットキャビン、居酒屋949、新星堂、ABC-マートなどの各店舗で、お得なポイントカードを発行中。上手に使って、ポイントをためてね!

二番街のトリビア　ーこんなこと知ってた?

●いつでもきれいな二番街

1日の通行人数が柏で一番多い二番街商店会。通路は御影石が敷かれていますが、いつもピカピカに清掃されています。清掃は3日に1度、通行人が少ない深夜に行い、いたずらなどで傷ついた柱などもメンテナンスをしています。

●ドレンチャーシステム

ドレンチャーシステムというスプリンクラーの大きなものがアーケードの上を通っています。これは、万一火事が発生したら、各店舗の前に水のカーテンを張って、煙や火の侵入から通路を守ってくれるもの。消火栓や消火ホースも整い、二番街は安全対策もしっかり行っています。

●アーケードの天蓋が開く

クリアになって明るくなったアーケードの天蓋。この天蓋は開閉式で、いざ火災などが起きた時には開けることができるように工夫が凝らされています。点検などを行うために、アーケードの天蓋の上には、キャットウォーク(高所などに設置される狭い通路)も取り付けられているんですよ。

●アーケード内を見守り

1996年に各ブロックに防犯カメラが設置され、以降、24時間体制で画像監視を行っています。さらに非常時には安全管理会社と二番街商店会事務局に連絡が入るような集中管理システムが導入されています。万一、火事などが発生したら、アーケード内にアナウンスが流れ、天蓋が開かれます。

二番街の床の御影石は、10トントラックが通ってもびくともしない強度を備えているんですよ!

●こんな人を発見!

深夜、二番街で作業をするのは、清掃の方たちだけではありません。フラッグの付け替えは、こんな風に行われているんですね。

見上げてごらん、二番街の空を！

柏二番街のアーケードには、年に6回程度、フラッグが掛け替えられています。季節やイベントにちなんだものも多く、毎回楽しみです。今回は、かわいいお子さんたちが描いたフラッグやアート感覚にあふれるフラッグをご紹介しましょう。皆さまも、二番街を歩く時は、上を見上げてみてくださいね。

We ♥ KASHIWA

かしわのいま

柏のまちづくり。いまそしてこれから。

リーマン・ショック以降の柏のまちづくり

駅前広場を整備し、柏駅東口をカフェで活性化しよう！

“若者のまち”として県内外に著名な柏駅周辺も、リーマン・ショック以降は集客が低迷。
そこで、新たに駅前を整備し、大人が楽しめるまちづくりを目指そうという動きが生まれました。
その中核となって活躍されている佐藤和裕さんに、お話を伺いました。

—それでは2010年あたりからお話いただけますか?

いわゆるリーマン・ショック以降、衰退してきた経済に対応するために、まちぐるみで商業活性化に一から取り組もうと、「まちづくりビジョン」を作ることになりました。柏をもっとお洒落なまちにしたい…、その延長線上にオープンカフェという発想が浮かんでいました。その拠点として、ファミリかしわ前の広場をきれいにしよう。それからダブルデッキの下も、自分たちで直そうという気運になってきたのです。

そこで、柏駅前第一商業協同組合（ファミリかしわ）と（株）スカイプラザ柏（そごう柏店を含む）、それぞれのオーナーにお願いして、ダブルデッキ1階の周辺整備を一緒にやろうと声をかけました。さらに商店街振興組合柏二番街商店会、柏駅前通り商店街振興組合、協栄商店会の方にもお願いして、整備をすることを目的に立ち上げたのが「柏駅東口グランドデザイン協議会」です。

—これまでの仕事と違い、難しいことなどありましたか?

これまで都市計画の仕事をしてきて、どちらかというとハードでまちづくりに関わってきました。今回は「まちづくりビジョン」とともに作成された整備計画を基に、私は“かしわここち”というキャッチフレーズを、どういう風に現場に作りこんでいくかという、現場監督の立場なのだと理解していました。経済産業省に出向くことも多く、その時に“ソフト作りをきちんとやらないとだめ”と強く言われたことで、覚悟が決まりました。

「柏駅東口グランドデザイン協議会」は3つの商店街と2つのビルで構成されています。そういった方々と一緒に整備事業を行うのは初めての経験でしたが、一生懸命取り組めば、皆さん理解を示してくれる。経済産業省についても同様です。お役所とのやり取りは、正直いって、求められていることがなかなか理解できなくて大変でしたが、“整備した場所をどういう風に活用するのか”、“賑わうということをどうやって証明するのか”…といった難題を突き付けられ、ハードを作って終わり、という仕事とは異なり、常に仕掛けていかなくてはいけないプレッシャーを感じました。

—特に印象に残っていることはありますか?

国の地域商店街活性化法が整備され、それに基づく補助金を申請しようということになり、

【プロフィール】佐藤和裕さん
一級建築士　株式会社三光建設　代表取締役
芝浦工業大学　非常勤講師
協同組合柏駅東口中央商店街連合　専務理事
柏駅東口グランドデザイン協議会　専務理事（後に協同組合に発展）

設計事務所勤務の後、独立。2008年に故郷の柏にて実家の(株)三光建設を継承。2010年の柏駅東口グランドデザイン協議会から、柏のまちづくりに深くかかわることとなる。「アートラインかしわ」の実行委員などの各種委員会や地域活動にも意欲的に参加。実家がレイソル通り（三小通り）にあることもあって、レイソル後援会・ボランティア部会での活動は趣味も兼ねて盛り上がっている。

ウッドデッキ整備イメージ（参考図）

2011年2月に「柏駅東口グランドデザイン協議会」を受け皿に出来るよう、法人化することとなりました。設立総会を開く必要も生じ、各商店街の方々と直接話しをする機会が増えてきました。商店街の方に理解してもらうには、とにかく誠意を持って話すこと…それしかありませんでした。整備計画の方針や"おしゃれな街をつくる"という目的は皆さんよくわかってくれて、想いは一緒だという気がしました。では具体的にどうやって実現するのかというときに、『オープンカフェ』という発想が生まれてきたのです。マルイ館にできたカフェのような場所がドンドン柏のまちに増えたらいい。かつてウラカシが賑わった時に、お客さんが勝手に店を歩き回ってブームになったような現象が、もう1度起きるのではないかと感じました。『オープンカフェ』が新しいまちの情報を発信する場所になるというストーリーを描いていけば、ハードとソフトが連動した整備ができると確信しましたね。まちを回遊する仕掛けを生み出さないと、ただのハード整備で終わってしまいます。

―今回の事業で、苦労された点はどのようなことでしたか?

"ウッドデッキの整備をして、賑わいを生み出すイベントを並行してやっていく"ということを理解していただくことが大変でした。皆さんが資金を負担するわけですから、「本当にやる意味があるの?」「うまくいかなかったらどうするんだ?」と言われるのは当然です。
実は、経済産業省の補助金をもらうには、ソフト事業を継続しなければいけないというハードルがありました。つまり、イベントをやり続けなければいけないんです。商業活性化につながる勉強会の実施もうたっているので、これもやり続けなければならない。その縛りがあるために、動き続けている中で、少しずつ理解の輪が広がればと願っていました。
商店街の方とコンセンサスを得るためには、丹念に丁寧にお話しを続けるしかありません。その中で、わかってくれる人が増えてきたと思います。
それから、ウッドデッキを整備する魅力を多くの方に知ってもらうには、いつも使われる場所にならなくては意味がありません。平均すると月に1.5回くらいはイベントが開催されていますが、それだけではなく、カフェのようなスペースを作って、常に人がいて、ゆったりとおしゃべりを楽しんだり、ラウンジのような空間でありたいと思っています。5年、10年かけてでも、駅前通りやサンサン通り、二番街など、あちらこちらにそういうスペースが出来るのが理想です。

―最後にまちづくりに関わった感想をお願いします

今回、自分のまちのまちづくりに深く関わることができて、本当によかったと思っています。自分が生まれたまちですから、逃げられない。腹がすわりました。
広場を使って行われているイベントなどを見ていると、それぞれが結構面白いことやっています。頑張っていると思います。これからは、まちが良くなるイベントをしたい、という想いを持っている人に、ウッドデッキを使える機会を増やして欲しいと願っています。柏を読み解いて、柏だからできることを、表現してもらえると嬉しいですね。
私は、「柏ってやっぱり面白いよね!」という言い方がずっと続いていくまちだといいなと思っています。
私は仕事を始めて以降、柏から10年離れていた時期がありました。しかしこのまちに戻ってきて、柏には柏なりの面白さがあるんだということを再発見しました。
まちづくりには、作る良さと作らない良さがあるのかもしれません。そういうことが理解できるバランスのいい人たちが、多分柏にはたくさんいるのだと思います。

マルイ館前

柏2丁目のオープンカフェ

柏ウエディングスタイルフォーラム（2013年）

柏の未来を語る

「かしわここち」から おもてなしを感じるまちへ

鼎談
石戸 新一郎
細田 真一
田口 博之

ダブルデッキ改修から、柏駅東口の景観を創造

石戸：昨年（2012年）、3年をかけて柏駅東口のダブルデッキが完成しました。はじめに中心市街地活性化協議会へデザインが提案されたとき、以前とあまり変わり映えしないものだったこともあり、市にデザイン変更の要望書を出しました。2008年の春のことですが、その頃から細田さん、田口さんには関わっていただきましたね。

細田：中心市街地活性化協議会の分科会を突如立ち上げて、その中で議論しようというものでしたよね。

石戸：デザイン変更のためのワーキンググループを作りました。

細田：毎回資料を作って議論をして…。そもそもは、耐震改修という位置づけで事業を始めたことに原因があったと思います。市のほうではデザインはあまり考えていなかった。でも、どうせお金を使うなら、デザインや用途もきちんと考えようという話しになりました。

石戸：我々はあそこを広場として見ていましたが、市は道路だと捉えていたという相違がありました。

田口：従来のやり方ですとコンサルタントが描いてきた絵を工事に発注するのですが、今回はプロポーザルという形をとってデザイナーを競わせたのが成功した点ですね。

細田：当初プロポーザルの発想はありませんでしたが、立ちあげたワーキンググループから要望があり、実現しました。

田口：プロポーザルはインパクトが大きかったですし、デザインも様変わりしました。

細田：手すりの部分がガラスになったことで、見通しも良くなりましたね。

田口：今回採用されたデザインが優れていた点は、作り込み過ぎず、"次の使い方"の余地を残していることです。今の段階では緑がないので、一見"寂しい"と感じられるかもしれませんが、これから植栽など手を加えていけるデザインとなっています。

石戸：ダブルデッキは道路ではなくて、市民の広場だと感じさせてくれる出来あがりです。開口部（スカイプラザ柏前）を小さくするのは大変でしたが、イベントで使いやすい。「キッザニア」の催しでもいろいろなものを詰め込むことができました。

細田：交通量は当初見込んでいたものより減っているかもしれませんが、時間が経つにつれさまざまなイベントなどに使える広場機能が見えてきました。

石戸：結果としては合格点かな。

細田：デザイナーの方は、オープンカフェもイメージしてデザインされたとのことです。

石戸：いろいろな余地が残っていますね。国土交通省に都市再生整備計画事業としてきちんとした計画を出せば、デッキはある程度は自由に使えるようになりそうです。補助金ももらえましたし、柏としては頑張りましたね。

細田：前の市長が駅前を景観重点地区にしたいと考えていたタイミングとも合いました。

石戸：しかし工事が決まってからリーマン・ショックが起こり、大変苦しい状況に陥りました。1998年に柏駅周辺イメージアップ推進協議会ができて、まちづくり事業を実施する

柏駅東口ダブルデッキ

石戸新一郎さん
柏市に生まれる。1967年に石戸画材を創業。2001年より柏二番街商店会理事長を務める。柏駅周辺イメージアップ推進協議会会長、柏市インフォメーション協会設立に尽力するなどその活動は広範囲にわたる。

ことにより、いわゆる「ウラカシ」と呼ばれる古着屋やセレクトショップなど若者を呼ぶお洒落な店が150店舗余り誕生しました。しかし2009年には50店舗ほどに減ってしまい、まちの面白さが薄れてしまった。役所に任せるのではなく、私たちの手でどうするべきか考えたいと思い、田口さん、細田さんに相談を持ちかけました。

田口：ずっと一貫している僕の思いは、ダブルデッキを見据えた将来を考えていくことにあります。そこにつながるファミリかしわ、その背後にある1丁目エリアを一緒に考えることが重要です。今回、ダブルデッキは綺麗になりましたが、基本は耐震改修の工事ですから、せいぜいもって20年です。仮に今後ダブルデッキを撤去するようなことがあったら、駅前の百貨店や一丁目地区みんなが関わってくる問題だと思っています。

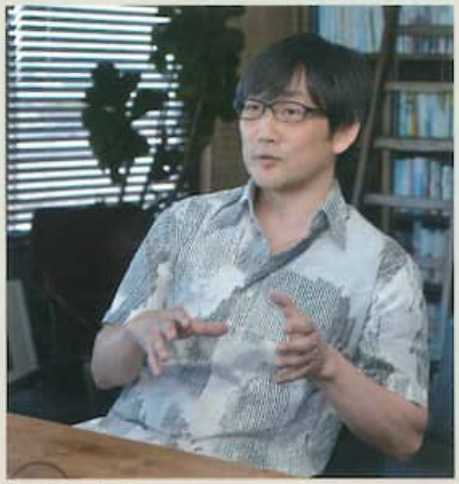
細田：若者のまちからの脱却が必要だ、という話しも持ち上がりました。住みたいまち、市民が誇りを感じるまち、という視点に立ち返って、まちづくりのビジョンを作ったんですよね。お洒落であることや、景観の良さもキーワードにありました。緑が圧倒的に少ないですし、休む場所やオープンスペースが必要だと思いました。緑はメンテナンスが大変ですが、まちに愛着が生まれます。

田口：緑についていえば、欧米では行政任せではなくて市民の寄付などで運営されています。例えばニューヨークのセントラルパークなどがそうですね。市民の公共空間や資産への関わり方が日本とは全然違っています。

石戸：今はまだ日本には馴染まない方針ですが、考え方を転換する時代になってきたのでしょうね。まちの人の民度にかかっています。

細田：緑は理屈抜きで人を心地良くしてくれます。木陰でお茶を飲むときの気持ち良さを大事にしたいですね。

田口：買い物に来る人はサービスを受けて当たり前と考えているかもしれませんが、来る人も住む人も含めて、まちに関わる人たちが、何らかの出資をするべきではないでしょうか。



細田真一さん
(株)細田真一・建築・都市計画研究所代表。東京大学まちづくり大学院に所属し、多彩な研究、活動を行う。まちづくりのスペシャリスト。

柏駅前通り

田口博之さん
田口博之・都市建築デザイン室を主宰。柏の葉アーバンデザインセンターのディレクター、NPO法人柏ソーシャルキャピタル協会理事など、生まれ育った柏市エリアで幅広い活動を行っている。

快適な住機能、住空間をつくる再々開発を

石戸：模型やバーチャルリアリティを駆使して、イメージを膨らませながら議論の場が多数設けられましたが、一貫して何が一番やりたかったことですか。

細田：以前から、柏の顔である駅前通りの景観を何とかしたいという思いがありました。個人的には景観をガラッと変えたいと思っていますが、今回はまず商店街の方たちを含め、市民がどうしたいのかを、仕掛ける立場から知りたかったですね。

石戸：景観が変わるとまちを訪れる人や、人が着るものなどが変わるでしょうか。

田口：1973年の再開発で柏のまちが一変した当時は、市街地にはお化粧して着飾って行く、という感じだったのかもしれませんが、40年以上経ってだいぶ変わってきたような気がします。

石戸：ウッドデッキにオープンカフェができたら、まちの中に見られる側と見る側の図式ができそうですね。

細田：まちを丸ごと全部きれいにしようとは思いませんが、せめて駅前の主要な場所については、市民が誇りを感じる景観にしたいですね。

田口：柏の中心市街地の道路の狭さは、ゴチャゴチャしているという面もありながら、僕は面白くて良い点だとも思っています。人が集まって、車が通りづらい、ということが魅力につながっている気がします。再開発というと道路を広げるという発想になりがちですが、D街区の再々開発でも、道を広げて車を通りやすくするような開発はいやなんです。人に回帰することに逆行しています。"道側からセットバックして何かを作りなさい"という制度は、柏には合わないのではないでしょうか。

石戸：1973年の再開発では、駅前の道幅を30mにするという案もあったんですが、今考えるとやらなくて正解でした。インフラがしっかりし過ぎて交通優先のまちになると、商業がダメになるケースが多い。柏はインフラが整っていない分、商業が発展しました。今後は車への依存度が減少していくでしょうし、公共交通さえしっかり整っていれば良いのではないでしょうか。景観と交通がこれからのまちづくりの大きなテーマとなるでしょう。

細田：今後はスプロールしていった市街地が主に縁辺部から縮退していきます。人口減少、高齢化の進行により公共サービスも手薄になり、どんどん住みにくくなります。市街地をコンパクト化してそこに集住することが解決策のひとつですが、そのためにはまち中の住環境をもっと整備しないといけません。

田口：今、柏の中心市街地に移り住んできた人たちの大半は、交通の便がよく、東京に出やすいから集まってきたわけで、住みやすいからという理由ではないですよね。住みたい、消費もしたい、と思わせるまちでなくてはいけない。ここ数年は都市のリノベーションを行ってきましたが、20年後の再構築を見据えて、使いこなしていく努力をすべきです。

石戸：柏はまだまだ再開発が進んで、変わっていくでしょうね。

細田：今はものすごく大きな転換期です。駅前の再開発ビルも40年を経過し、更新時期に入っています。関係権利者は相続等で膨らみ、数百人と言われています。合意形成時間を考えると、すぐにでも再々開発の検討に入らないといけません。

石戸：ほかにまちづくりのガイドラインにおいて、大切なことはありますか。

田口：産業と雇用でしょうか。アートラインなどの活動の次のステップとして、クリエイターも含めた産業の活性化はポイントになりそうです。まち中で働く人、ものづくりをする人など、個人単位のクリエイターが集まる可能性が柏にはあると思いますし、中心市街地ならではの展開がありそうです。

細田：やはり快適な住機能、住空間をつくることでしょうか。あくまで住宅主体ではなく、商業地とミックスしたような楽しい空間で、建物はせいぜい4、5階くらいまで。下はスタジオや店舗になっているようなイメージです。駐車場や駅近くにある2、3階建ての建物など、今利用されていないところをうまく活用して、適度な投資で適度な回収を見込んだ、身の丈にあった再開発が必要だと思います。

田口：高度成長期の右肩上がりの時代にシステムとして生み出された再開発や区画整理事業は、低成長の社会では成立しない。だから新しいシステムを生み出さなければならない。今は生みの苦しみの時代といえるでしょう。

渋さ知らズ路上ライブ（2013年）

石戸：再々開発で住居の機能が増えるとしたら、これからのまちづくりは手間がかかりそうですね。人口の減少や高齢化が続く今、税金に頼っていては、まちは破綻してしまいますから、商業の役割が問われていくでしょう。セントラルパークの例にもあるように、税金以外にまちのために自分たちがお金を出すということに関して、考えさせられます。

田口：商業でも住環境でも、都市機能を高めるということでは東京にかなわない。でも郊外30kmの強みを生かして、中心市街で便利に生活しつつも、手賀沼などの自然や緑のアメニティーに触れられる、そんなメリハリが出てくると、住みたいと思えるまちができるのではないでしょうか。

細田：昔、柏は水運のまちでしたし、歴史を伝えるものが蓄積されています。古くからあるものの意味を踏まえると、伝えるべきもの、残すべきものが見えてくる。すると景観にも幅が出てくると思います。

柏にもアーバンデザインセンターを

石戸：私は新市街地である柏の葉のアーバンデザインセンターとの連携を期待して、柏駅近くにもアーバンデザインセンターが必要だと考えています。現在、柏市まちづくり公社が中心となって、まちづくりセンター設置の準備会を立ち上げています。今後内容を詰めていく中で、まちづくりセンターがアーバンデザインセンターに変わることは十分に考えられます。また、可能ならば今回設置されるセンターの事業として、柏駅周辺のまちづくりガイドラインが出来れば良いのではと考えています。日本中探しても、アーバンデザインセンターが2カ所あるまちはないかもしれません。"柏の葉アーバンデザインセンター"の情報力はすごいものがあります。今や柏駅周辺よりも柏の葉の方が全国的には認知度が高く、アーバンデザインセンターには年間300件の視察が来るほどです。柏レイソルと並ぶくらい有名かもしれません。

田口：柏の葉では、柏の葉アーバンデザインセンターを中心としながら、まちづくりを進めています。

石戸：1998年に誕生した"かしわインフォメーションセンター"には、海外やほかの地域から来た人たちをもてなす、という意味がありました。外国にはインフォメーションセンターや観光案内所が必ずありますが、柏では交番やデパートの受付がその役目をしてきたところが大きい。日本の中では柏のインフォメーションセンターは先端をいっていると思いますが、アーバンデザインセンターも含めて、おもてなしの雰囲気をもっと作っていかなくてはと考えています。今後、ダブルデッキ、駅ビル、デパートも含めて、かなり大規模な都市空間の整備が行われるとき、アーバンデザインセンターで作ろうとしているまちのガイドラインは、柏の将来を変える契機となる、すごく重要なものであると考えています。

細田：柏全域や茨城方面とのつながりなど、大きな視点で考えていく必要もあるでしょう。

石戸：柏の中だけで考えると、北側の柏の葉、南部地域との連携も促していく必要がありますね。

田口：市内の地域がつながるとよいとは思いますが、その効果は未知であり、難しい問題です。常磐線やつくばエクスプレスは都心につながっていて、市民の気持ちは都心を向いている。でも柏の葉方面には東京大学や千葉大学もあり、面白い人がいっぱいいる。そういう人たちが柏の中心市街地に関わることに期待しています。南部には手賀沼などの自然もあって、市街地とつながるメリットは大きいのではないでしょうか。

石戸：ブランディングにおいては、何がこのまちで一番でしょうか。「かしわここち」、「きらめく人はきらめくまちに」というコミュニケーションワードを作りましたが、現状はこのワードに近づきつつありますか?

細田：まだまだですが、柏全域のまちづくりの将来像やマスタープランへのきっかけにはなったと思います。

田口：僕は「かしわここち」は的を得ていると思っています。柏の中心市街地にはホスピタリティが欠けているので、商売人の気質を生かしたおもてなしや緑が根付いてほしいと思います。誰もが、もてなされている空間で住みたいとか、買い物をしたい、遊びたいと思っているはずです。

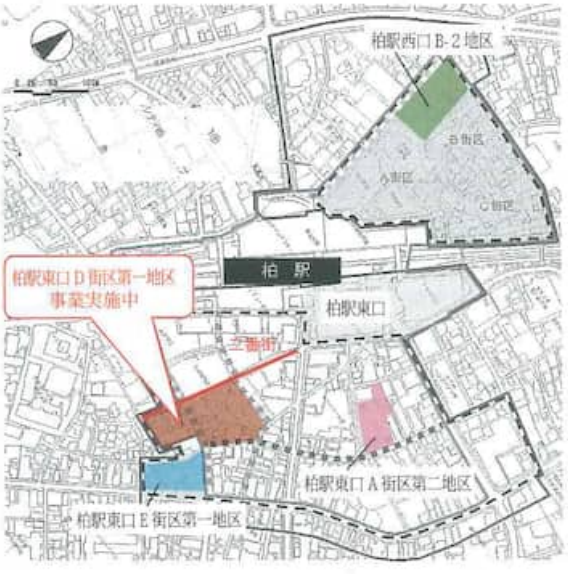
石戸：まちがそういう雰囲気を醸し出さなければならないですね。

細田：人間が心地よいと感じる共通項はありますから、たとえハードルは高くとも、こういった視点で仕掛けていきたい。基礎的な環境が整っているエリアでは、更なる快適性をどうやって具現化していくかを考えていくことが必要です。

柏駅東口D街区第一地区市街地再開発事業

既存商店街の再編整備や、老朽密集市街地の建て替えによる防災性の向上に加え、都市計画道路の整備や壁面後退による歩行者空間の整備を行う事業。また建物内には集合住宅、商業・業務施設、文化交流施設の整備も予定している。

完成予想図



Interview

柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）

東京大学、千葉大学、柏市、三井不動産、柏商工会議所、田中地域ふるさと協議会、首都圏新都市鉄道、7者の構成団体で運営。「公·民·学の連携」を基本理念に、市民と行政、企業、大学などが連携したまちづくりを推進。
所在地：柏市若柴 184-1 柏の葉キャンパス 149-13
電話番号：04-7140-9686
開館時間：10:00～19:00
休館日：年末年始（12／26～1／7）

Interview
柏の葉アーバンデザインセンター
センター長 出口 敦さん

「公・民・学」連携の拠点を目指して

柏駅東口エリアとはまた異なったまちづくりが進行している柏の葉エリア。その中核となっているのが、柏の葉アーバンデザインセンターです。2006年11月に設立されて以降、ゆるやかなネットワーク型の任意組織として、まちづくりに係る多様な主体の参画と連携を促し、活動の自由さ、多様さを育んできました。今回はセンター長の出口敦さんにお話しを伺い、柏エリアを広くとらえて、まちづくりについて考えてみたいと思います。

質の高い都市空間の整備を目指して 2006年に誕生

2005年につくばエクスプレスが開通した当時、東京大学の柏の葉キャンパスはすでにオープンしていましたが、柏の葉キャンパス駅周辺はまだ更地が多く、学生や働く人たちが寛ぐ居場所がありませんでした。そんな中、2006年11月に柏の葉アーバンデザインセンター（以下UDCK）は設立され、8年目を迎えます。

まちづくりにおいて、区画整理は県、公園は市、研究は大学、施設建設はデベロッパーというように関係者がバラバラの方向へ進むのではなく、目標を共有し連携していくことが望ましいでしょう。そこへ市民も加わって協働する。UDCKは公（県、市、NPOなど）·民（市民、地元店舗や事業所、企業など）·学（大学、専門機関、研究機関）の連携を推し進め、その拠点として機能しています。よく知られている「産·学·官連携」の「官」の中には、NPOなどが入っておらず、「学」は学識者であり学生は入っていません。もとより市民は含まれていない。NPOや学生、市民も一緒に連携をとることが大切なのです。

柏の葉エリアは、「国際キャンパスタウン構想」に目標と方針を定めてまちづくりを進めています。これは「公·民·学」連携によって、国際学術都市を目指し、学術研究資源の活用と国際化を推進しよう、と千葉県、柏市、東京大学、千葉大学の4者が2008年に策定したものです。その中で「環境と共生する田園都市づくり」、「創造的な産業空間と文化空間の醸成」、「国際的な学術空間と教育空間の形成」、「サスティナブル（維持可能）な移動交通システム」、「質の高い都市空間のデザイン」など8つの目標を掲げています。「緑地の割合を40%にしよう」とか「自転車利用率を10%あげよう」など、具体的な数値目標を含んだものです。UDCKはそうした目標を実現させるために位置付けられていて、「空間デザイン部会」、「モビリティ部会」、「国際教育部会」など毎年8～10の部会を設けて活動し、年度末に達成度を整理していきます。そのうえで次年度のテーマをつくる、というように柔軟に運営されています。実践的な活動に参画すると、学生もいきいきと育っていきますね。

出口敦氏　柏の葉アーバンデザインセンター 3代目センター長。東京大学大学院新領域創成科学研究科 社会文化環境学専攻教授、工学博士、都市デザイナー。

UDCKの特色と「まちのクラブ活動」など多彩な活動

UDCKには、打ち合わせや休憩などに利用できるラウンジをはじめ、ワークショップやフォーラム、企画展などフレキシブルに対応するギャラリー、一般開放しているテラス、オープンデッキといった専用の施設が整っています。また都市設計や建築、エリアマネジメントなどの専門家6人がディレクターとして常駐しているのも特色です。例えば県が道路の並木道に植栽し、市がその管理にあたる場合、中立の立場から快適で管理しやすい並木道をつくるためのコーディネートをします。その他、公共空間やインフラに関して、ルール・ガイドラインづくりをはじめデザイン調整に携わっています。

柏の葉には40年以上前からの住人がいる一方で、新規住民も増えていて、コミュニティを育てていかなければなりません。そこで大学にクラブがあるように、「まちのクラブ活動」を設け、支援を行っています。現在クラブ全体のメーリングリストには登録者が1,000人以上いて、ヨガやキッズ英語のサークルなど、20ほどのクラブが活動しています。「セグウェイ（電動立ち乗り二輪車）クラブ」や「ハチミツクラブ」など、ユニークなものもありますよ。

柏の葉セグウェイクラブ

柏の葉エリアは実験都市としての役割もあり、UDCKはアイデアや開発技術を活かした社会実験のコーディネートにあたっています。東大の大和裕幸研究室が開発したオンデマンドバス「コンビニクル」は、利用者のニーズでルートが決まる乗り合いバスのようなもので、柏の葉での実験を経て他の都市で応用されています。またUDCKや東大、市役所などにポートを設置し、電気自動車や電動バイク、自転車などエコな乗り物を共有利用する「街乗りシェアリング」も実施しています。

柏の葉ピクニッククラブ × 東大 pips !

イベント関係では、毎月第1土曜、日曜に駅前の空間を利用して「マルシェコロール」を開催しています。周辺農家の地場野菜や、クラブ活動の成果品を販売しており、年々参加者が増えてきました。また、子どもたちが参加できるものには、仕事体験のイベント「ピノキオプロジェクト」といった催しもあります。東大大学院生による、宇宙に関するワークショップ等も子どもたちに人気です。大学院生が小学校で皆既日食について解説するなど、大学院生がいる街ならではの活動も行われています。

福岡・天神地区に息づくエリアマネジメントの精神

私は1993年から18年間、九州大学に勤務していました。福岡は九州最大の都市で、人口は150万人、柏の4倍弱です。1996年に大規模複合商業施設「キャナルシティ博多」が誕生し、市の天神地区にデパートが3つ開店するなど90年代はまだバブルが続いていたような状況でしたが、2000年代に入ると都市環境はますます過密化して厳しくなっていました。

福岡市をミクロにとらえると都心部は二眼レフ構造で、古くから商業の中心地である博多と、戦後に新天町商店街が形成された天神地区という、2つの拠点があります。近年、天神は福岡の中心として発展してきました。一方で、旧博多部の活力は低下していったのですが、JR九州による博多駅の再開発計画を契機に徐々に盛り返してきました。そのため天神地区では、「天神の魅力を強化しよう」とエリアマネジメントの協議会発足に至ったわけです。この地域は車の渋滞や違法駐車などの問題を抱えている点で、JR柏駅周辺と似ています。自転車の違法駐輪が増加し、交通＝まちのイメージを悪くしていました。

そこで、2001年に交通・まちづくりのための協議会「モビリティタウン協議会」を発足し、わたしはこの会の座長を務めました。2004年に初めて実施した「天神ピクニック」は歩行者天国やオープンカフェを導入した社会実験で、公共空間や各所施設の利用方法の改善を官民協働で取り組んだもので、国土交通省道路局から補助金を受けることもできました。「都心に入ってくる車の量を抑制したい」という要望を受けて、フリンジ駐車場を設置してシャトルバスを運行し、3時間無料の駐輪場など大掛かりな試みでした。幸いにも好評で、その後、「I love」という個人的なまちへの愛着から、皆でエリアマネジメントに取り組んでいく意志「We love」へというアジェンダを確認することができました。2006年には「We Love天神協議会」も設立されました。「自分たちの街のブランドを自らの取り組みで創り出そう」という天神の人たちの意識の高さこそが、エリアマネジメントの原点ではないでしょうか。

自治体経営とリンクする 柏駅周辺そして柏の葉それぞれの役割

これからの時代、UDCを各地でどんどん創ってほしいと思います。「まちづくりセンター」と呼ばれる施設は全国に140カ所以上ありますが、行政の外郭団体として主に80年代以降に設置されたもので、住民活動の支援などソフト面に携わっています。UDCKは空間デザイン、施設や道路などのハードをデザインする側面も多分に含み、また清掃活動や防犯活動などを地域の事業者や住民が自主財源で主体的に運営するエリアマネジメントも推進しています。災害時に対応できるエネルギーマネジメント、20〜30年後に高齢化することを踏まえた予防的な健康マネジメントなど、多方面のマネジメントをデザインとセットして考えていくことが、これからの都市経営において重要となるでしょう。

これからの自治体は財源の面でも大きな課題があります。人口が右肩上がりの時代においては、市民税の税収を増やしていくことで補えたものが、これからはそうはいかない。柏の自治体経営でも、今後、これまでのようなサービスのレベルを維持していくことは難しくなると思います。

新たな方向性の一つとして不動産価値を向上させ、固定資産税収を増やしていく戦略が考えられます。アメリカではオフィスや商業事業者が固定資産税にプラスして街のマネジメント経費を納め、地区の環境的価値や不動産価値の維持向上につなげていくBID制度等の考え方がいち早く浸透しています。

地域が主体となり、ある程度の負担も担いながら、不動産価値の維持向上を目指す取り組みは、早晩日本でも考えていかなければならないと思います。まず都心部や駅周辺など高い収益力がある地域が先陣を切っていくことが考えられますが、柏駅周辺はまさに都市のエンジンとしての役割が求められているのではないでしょうか。

一方、柏の葉は大学の知恵を積極的に取り込みながら新しい産業や営みを創出するフロンティア的な地域としての役割を担っていくことが求められます。

それぞれの地域が新たな役割を担うための取り組みは、従来の体制では難しく、エリアマネジメントの組織やUDCが、行政と独立したところで、新たなまちづくりの取組みの推進役を担っていかねばなりませんね。

心あたたかな案内で、柏の情報、なんでもお教えします！

かしわインフォメーションセンター

かしわインフォメーションセンターのカウンター。写真左から、頼もしい存在の事務局長・宮川さん。子どもを育て上げ、ボランティア活動に意欲を燃やす藤田きみ子さんと藤本知代さん。

「ここに来ると、ほっとする」という場所を目指して

1日の来訪者が、平均で160人という「かしわインフォメーションセンター（KIC）」。2001年開設以来10年が経ち、ますますの盛況ぶりです。情報を提供するばかりでなく、地域交流の中核の場として展開していることも功を奏したようです。柏の駅前、「ファミリかしわ」3階という絶好の立地。100坪のオープンスペースは、市の出張所と共有になっています。行政と市民が手を組み、ボランティアが中心となって運営していくという、県内初の試みの場として開設されました。

この意欲的なチャレンジに多くの人々の参集を得た影の功労者は、現在「柏市インフォメーション協会」の相談役・石戸新一郎さんです。「わが家にお客さまを迎え入れるような、あたたかい雰囲気の場所づくりを」というKICの目標は、石戸さんがアメリカで学び体験した、ボランティア活動からヒントをもらったものだといいます。

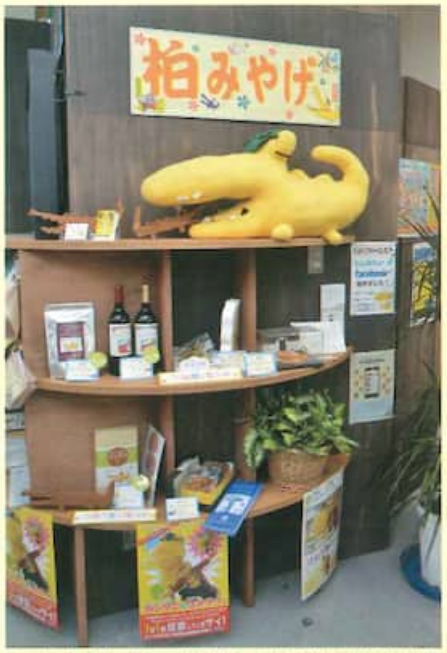
この精神は、3年前に就任した3代目事務局長の宮川秀勝さん（30歳）にも、しっかり受け継がれています。

「『ここに来ると、ほっとする』との声を聞くことが、何よりうれしいです」。

2010年4月に、特定非営利活動法人・柏市インフォメーション協会「かしわインフォメーションセンター」の3代目事務局長に就任した宮川秀勝さん。柏で生まれ育った。心から打ち込めるものがほしい！とチャレンジし、40倍の競争率で選ばれた。博学ながら控えめな物腰だが、人とかかわることが大好きな、熱いハートの持ち主。

宮川さんと、宮崎市から訪れてお目あての店の場所を尋ねてきた男性。

地域の自然、教育、スポーツなどをさまざまな視点でとらえた作品を紹介するブース。今回は子どもたちによって描かれた「未来の柏」を展示。



ワインやせんべい、どら焼きなどが陳列された柏みやげコーナー。商品はそごう柏店で購入できる。

"おいでよ柏に"をもじって生まれたゆるキャラで、KICが考案したもの。手賀沼在住で、誕生日は5月5日。性格はのんびり、まったりで口調はスロー。好物はヤキトリとスイーツらしい。2010年に柏市より"特別住民票"が授与されている。

手づくりマップを駆使した、きめ細かな案内

訪れた人たちのどんな要望にも応えられるよう、さまざまなマップやパンフレットも用意。KICのサポーターになっている飲食店や不動産屋さん、各大学などからの情報が掲載されています。

来訪者のなかには、宮崎市から訪れたという65歳の男性も。探しているアメリカ「ターン」社製の自転車が、市内の橋本輪業にあることを知って来たのだそう。店の場所を知りたいとのことでした。

すると事務局長の宮川さんは、KIC手作りのマップを広げて即座に「ここです」と示したのです。男性は、あまりの対応の早さにビックリ！さらに、こだわりの自転車の知名度の高さを知っていた宮川さんにも好感をもった様子で、足取りも軽く出かけて行きました。

渡したマップも、スタッフによる手作りのもの。みずからの足で場所を確認し、飲食店などは味も確かめてから掲載しています。地図をシリーズで無料配布していることが、KICの存在を多くの人に知ってもらうきっかけにもなったといいます。

そのほか、このまちが大好きでたまらないという人に「かしわハート大使」として広告塔になってもらったり、ゆるキャラ「カシワニ」をあちこちで行われるイベントにひっぱり出すなどして、柏の魅力を四方八方に発信することにも力を注いでいます。

「住みたいまちとして、若者にも人気が出はじめているこの柏。さらに多くの人に魅力を知ってもらうため、よりきめ細やかに、市や県の垣根を越えて情報を発信していきたいと思います」と穏やかな口調で語ってくれた宮川秀勝さん。その瞳は、熱く燃えていました。

100坪ある広いスペースの賃料は、柏市が助成。左側は市の出張所、右側が「かしわインフォメーションセンター」で、とてもアットホームな雰囲気。

ファミリかしわ3階にある「かしわインフォメーションセンター」の入口。JR柏駅南口から行くとわかりやすい。

まちのおすすめ情報を掲載。意外に知られていない、柏の魅力を再発見できるスペース。

柏周辺では、複数の再開発計画が進んでいる。そのひとつが、柏駅東口D街区の再開発事業。模型は、商業・業務・公益的施設・共用住宅・駐車場に利用する、地上27階建てのビルをイメージしたもの。平成28年に完成の予定。

館内のラックには、「食べる」「暮らす」「買う」「遊ぶ」「学ぶ」のカテゴリー別に各社のパンフレットが置かれている。また、観光マップやお散歩ガイド、行政のイベント情報、そして外国人向けのマップやパンフレットに至るまで、自由に入手できる。

柏のまちを楽しめるように、ランチマップをはじめ、柏駅周辺マップ、フリーペーパーなど、さまざまな情報が用意されている。手作りならではの、きめ細かい情報が満載！　すぐになくなってしまうほどの大人気。

「かしわインフォメーションセンター」では、市民スタッフやかしわハート大使を募集しています。

☆市民スタッフ（案内ボランティア）
柏のまちを知ってみたい人、だれかのために少しでも役に立ちたいと思う人に最適。案内カウンターは1日3時間半ずつ3交代で、好きな時間帯を選ぶことができる。活動手当は1回につき500円

☆かしわハート大使
「柏自慢したい人集まれ」という企画。柏市に在住・在勤にかかわらず、柏を大好きな人に「かしわ大使」になってもらい、ともにPRしようというもの。入会・登録すると、特製名刺（名刺代50枚で1000円が必要）を持つことができる。

かしわインフォメーションセンター
柏市柏1-1-11ファミリかしわ3階
☎ 04-7168-8686
営 9:00～19:00
休 年末年始、7、8月の第1・3日曜
E-mail:info@86kashiwa.net

Town

若者と柏のまちの接点をつくった「ストリート・ブレイカーズ」

2013年10月5日、「音街かしわ」が、JR柏駅東口Wデッキ特設ステージで行ったイベント。サンプラザ中野くん、「カシワ男子ほのじ組」、バッパラー河合など、多数のミュージシャンたちが出演。

15年目を迎え、さらなる飛躍をめざす

「音楽のまち」、あるいは「若者のまち」として、全国に名を馳せつつある柏。その一翼は、15年前から活躍している市民団体「ストリート・ブレイカーズ（通称ストブレ）」が担ってきたといえます。この団体は、つねに斬新な企画を立てて実行し、まちを活気づけてきたからです。

誕生したのは1998年のこと。柏商工会議所青年部の創立20周年を機に、若者が柏のまちをもっと身近に感じられるようにしようと創設されたプロジェクト。それが「ストリート・ブレイカーズ」だったのです。メンバーを募集した当時、60名の若者が集まったため、全員を「ストブレ」の塾生にしてスタート。

イベントを計画するなかで着目したのは、これから柏のまちの象徴になるにちがいないと思われる、ミュージシャンたちによる路上ライブです。これこそ柏が発信する若者文化だと考え、コンテストを主催。予想以上の好評を博し、1年限りの活動予定だった「ストブレ」も、「柏駅周辺イメージアップ推進協議会」の下部組織として復活。総勢25人で、2000年に再スタートを切りました。現在は、40人のメンバーで活躍中です。

9年間続いているこのコンテストは、2010年には躍進をめざし、市内の音楽事業者とともに「音街かしわ Project」を結成。その動きのなかで、ミュージシャンであり、作家でもあるサンプラザ中野くんが地元エリアを軸にしたレーベルの設立を要望。結果、ミュージックセキュリティーズと「音街かしわ Project」、サンプラザ中野くんの三者が協力し、地域密着型レーベルとして「柏兄弟」を発足。音楽を通した地元内外での交流や、新人発掘などの活動を行うことになったのです。

2012年にはカシワムスメコンテストで選ばれた3人が「コズミック☆倶楽部」を結成。2013年5月には、柏の応援団をつくるため「カシワ男子コンテスト」を開催。歌って踊れる、柏大好き男子5人が選ばれ、7月にユニット「カシワ男子ほのじ組」としてデビューしました。

さらに、まちのイベントの企画立案や運営などを行う「柏マイスター塾」も立ち上げて、9月に第5期生を募集。5人が選ばれました。

塾生は「ストリート・ブレイカーズ」に所属。年間を通して、当団体が企画するイベントの運営にあたったり、他の団体の活動にも参画する。2013年の第5期生は、「今・そして未来の柏」をテーマに、柏のまちづくりを多岐にわたって勉強し、年末に卒塾となりました。年度末に予定されている卒塾式での発表会に向け、日々がんばっています。

カシワシムスメコンテストで選抜された「コズミック☆倶楽部」。バッパラー河合さんによるプロデュースで2枚目のアルバムを発売。地域アイドルとして売出し中です。

「カシワ男子コンテスト」で選ばれた16歳から30歳までのイケメン男子5人。熱血リーダーの団長カッシー、陽気なシンガーのタクト、シャイなRY0君、ピアノとバラの好きな太郎ちゃん、ゆるキャラNo1をめざすカブの妖精・カブ左衛門と、ユニークなメンバーがそろう。

柏が「音楽のまち」として有名になったきっかけは、柏駅前のダブルデッキで多くのミュージシャンたちによるライブ演奏が行われたこと。現在は認定証をもらい「柏ルール」に従って演奏するのが決まりに。ここからメジャーデビューした人たちもいるため、路上ライブが登竜門になっているとか。

柏駅周辺イメージアップ推進協議会事務局
☎ 04-7166-0099 営 月・火・金曜 13:00～17:00

柏を盛りあげる市民参加型の楽しいイベントを開催！

柏のまちをもっと楽しいまちにしたいという「ストプレ」の活動は、とどまるところを知りません。柏神社で月1回、定期的に行われる「手づくりての市&ジモトワカゾー野菜市」もそのひとつ。手作り品や地元の新鮮野菜などが並び、作り手と買う人をつなぐコミュニケーションの場として注目を浴びています。

「手づくりての市」の拡大版として年2回、駅前通りを含めて開かれる「ぶらり寄り道ストリート」も好評です。地元産の安全な野菜を、市内のシェフなどに料理してもらう「青空レストラン」や「青空カフェ」。近隣の骨董商や古本屋さん、そして裏カシのビンテージショップなども加わった大がかりなもの。普段の市ではお目にかかれない、掘り出し物に出会えるチャンスがあると、大勢の人が詰めかけています。

「上野まで、わずか35分。駅周辺はにぎやかですが、一歩奥に入ると静かな住宅地が広がり、野菜などを作っている場所もあります。買い物も便利で、大学まであるという、おちついた住環境。恵まれた環境なのに家賃が安いとなれば、若者が住みやすいまちと胸を張るのも当然でしょう。柏のまちには、いろんな夢を求めて来てほしい。これからも、若い人たちとともに、もっとおもしろい柏にしていきたいというのが私自身の夢なのです」

プロジェクトの仕掛け人である、「ストリート・ブレイカーズ」運営委員長の市村日出夫さん。フレンドリーで包容力いっぱいの人柄が、静かな口調からにじみ出てくるようでした。

「拡大版ての市」は年2回の開催。柏神社と駅前通りすべてのスペースに手づくり作家や農家のブースが出店。さらに古本市の「本まっち」、ビンテージ自慢の「ジャンクマーケット」、お宝盛りだくさんの「骨董市」や「街カフェ」などともスクラムを組んで、まちじゅうを回遊できるイベントも開催中。

柏神社境内で開催されている「手づくりての市&ジモトワカゾー野菜市」。新鮮な野菜はそのままで十分おいしくいただけます。

旅行代理店やチョコレートショップを経営するかたわら、「ストリート・ブレイカーズ」の運営委員長を務める市村日出夫さん。「いまの活動は、まさにソフト事業のよう。人を育てるのが生きがいになってきました。柏は、若者たちの音楽のまちとして有名になりましたが、おしゃれで住みやすいまちに変貌しつつあります。ですからみなさんに、おもしろい柏を見てほしいのです」

メンバーの年齢は18歳～58歳までと幅広いが、イベント活動を通じての仲の良さはピカイチです。BBQ大会のみならず忘年会やキャンプ等を通じて、絶大なる遊び友だちを越えて、マジメな人生相談だってあるんですよ。

柏をもっと盛り上げたいと「ストリート・ブレイカーズ」がプロデュースした「手づくりての市＆ジモトワカゾー野菜市」。月1回の晴れた日曜日9時～16時、柏神社境内で開催。手づくり作家の作品や工芸品、食品や地元の産直野菜などが並ぶ。開催日などは、ホームページやtwitter（@tenoichi）で告知。出店料1ブース3,000円。申し込みは、開催日の4週間前までに。詳しくはホームページをご覧ください。
http://www.streetbreakers.org/tenoichi/

JOBANアートラインかしわ
みんなでつくるアートのまち・柏

ライブペインティングが柏の名物イベントに

つねに新しい風を送り続け、多くの人たちを集めている柏。街そのものを、アートのライブステージにしてしまいました。

2006年3月。JR常磐線の上野駅から取手駅の街々を活性化するため、沿線自治体と東京藝術大学、さらにJR東日本東京支社で発足させたのが「JOBANアートライン協議会」。時を同じく結成されたのが、「JOBANアートラインかしわ実行委員会」です。メンバーは、商業者や自営業者、主婦、学生など。

「JOBANアートラインかしわ」の最大の特徴は、「アーティストのためのアートイベント」ではなく、「柏を訪れる人々に、アートがあるまちを楽しんでもらう」のを目標にしていること。そのため、できるだけ多くの市民の目に留まるようなイベントを実施しようと、アートイベントをほとんど見たことがない素人集団の実行委員たちは、とても苦労したそうです。

手はじめにその年の秋、柏駅前のダブルデッキで行ったのが、「ライブペインティング30vs30」。ジャズ演奏をバックに、公募に応じた若者20人と市民10人の計30人が、約50センチ四方の30号キャンバスに半日がかりで絵を描きつづけました。

「見る側にしても、完成した絵を見るのも楽しいのですが、描く過程を見るほうが、よりワクワクするようです。描いている人のそばに近寄っていっては、盛んに質問したり話しこんでいる姿が印象的でした」と、実行委員長兼プロデューサーの寺嶋郁夫さん。

その後、このライブペインティングは「アートラインかしわ」の名物として定着していきました。これまでストリート・ミュージシャンたちのライブが有名になったまち、柏。アートのライブも喜んでもらえるという確かな手応えをつかんだのです。

2006年、若きアーティスト20人と市民公募で選ばれた10人が、30号キャンバスに挑んだ「ライブペインティング30vs30」。

駅周辺がいっせいにライブペインティングの場に。期間中、二番街でも開催されました。（写真は2006年開催時）

2007年。白塗りで有名な山海塾と共に世界で評価された舞踏集団「大駱駝艦（だいらくだかん）」の公演を、駅前通りで開催。全身にまとった金粉で演じる前衛的なパフォーマンスが展開されました。

「アートラインかしわ 2013 ――枚の絵のカー LIVE PAINTING SHOW ―」。同年のライブペインティングには京都造形大教授の美術家、椿昇氏をはじめ多くの著名な現代アーティストが参加。柏駅東口ダブルデッキでその腕をふるいました。

まちがキャンバスになる芸術の秋

「LIVE　ART」、「ひらかれるステージ」、「でくわす」、「カシワノミカタ」。
毎年のテーマからもわかるように、これまでもまちとアートのかかわり方を模索してきたアートラインかしわ。2013年のテーマ「ジャンクション」は、いろいろな人々、さまざまな思いが行き交う交差点をイメージし、共感してもらうアートイベントを展開しました。
ウッドデッキにリニューアルされたファミリー広場では、「和み」を共通のテーマとし、絵画や音楽、書、舞などの表現者たちがパフォーマンスを競う「かしごころ」を開催。
また、髙島屋やそごうの店内にも数々のアート作品が展示され、二番街商店会のフラッグがアート作品になり、駅周辺の電子看板やビル壁面へのプロジェクション投影による、ビデオアート作品の発表もありました。
さらに、柏商工会議所と連携したイベントも例年どおり開催。まちの文化と景観の向上を、アートをモチーフにして展開する「まちデザインシンポジウム」がそれです。
企業活動とアートの新たな関係を、いかにまちづくりに生かしていくかをテーマとし、パネリストには長年にわたって国内のアートイベントを支援しつづけている加藤種雄氏、都心で展開する表参道アートフェア実行委員長の戸塚憲太郎氏、「MaGaRi（間借り）」「逆不動産情報Talent」など、浅草を拠点にユニークな着眼点でまちづくりに取り組む、今村ひろゆき氏が登場しました。

1980 年代生まれのアーティスト3人による絵画・壁画の展覧会「生成のヴィジュアル　-触発のつらなり」。素材やジャンルの異なる3人が生み出すヴィジュアル表現が注目を集めました（2013 年）。

壁面アート展「せん」。開業 5 周年を記念し、柏髙島屋ステーションモール新館 8 階特設会場で、芸大・美大に在籍する柏美術学院の現役講師陣による展示が行われました（2013 年）。

「アートラインかしわ 2013 ―渋さ知らズ　解放区 in Howdy Mall ―」駅前通りの歩行者天国には、大型バンド「渋さ知らズ」が登場。音楽と舞踊のパフォーマンスに熱狂しました。

三井ガーデンホテル 1 階ロビーに現れた銀張りの茶室「虚象庵」。建築家で美術家の佐野文彦さんの作品で、鏡に周辺の環境を映すことによって、空間に溶け込む茶室を表現（2013 年）。

「アートラインかしわ 2013 ―柳原絵夢作品展」では、そごう柏店噴水広場に柳原絵夢氏のこんな展示も行われました（2103 年）。

まちづくりのためのアートイベントとして

「柏の人の気質は、昔から排他的ではなく、よそから来た人も快く受け入れるのが特徴のようです。父の時代の柏駅前は、田んぼが広がり、銀行とほんのわずかな商店しかありませんでした。ですから、たとえよそから来た人でもまちの発展に寄与してくれるなら誰でも仲間にしていかないと、周辺のまちのような発展は望めなかったのです。そうやって人を巻き込み発展してきたことが、まちのDNAになっている気がします。ただ、右肩上がりの発展をしてきた柏も、これからは個々の店の力だけで生き残るのは難しくなってきました。アートラインのような活動を通じ、みんなで連携して楽しいまちをつくりあげ、住む人、訪れる人、働く人に選ばれ続けていくことが、何より大切だと思っています」
と、柏のまちに対する、溢れんばかりの心情を率直に吐露してくれた、寺嶋郁夫さんです。

「イベントを開催し、まちの人たちが喜んでくれる顔を見るのが、いちばんうれしい」と、何度もくり返す、実行委員長兼プロデューサーの寺嶋郁夫さん。

「JOBANアートラインかしわ実行委員会」とは―

柏駅前を中心に秋は、約1か月間にわたりさまざまな団体と協力して「アートラインかしわ」を開催。
春は、東京アートフェアと連携した「KASHIWA ART DAYLIGHT」を実施している。

□代表：石戸新一郎（柏二番街商店会理事長／いしど画材）
□副代表：小柳満雄（柏駅前通り商店街理事長／こやなぎ）・芦原隆（協栄商店会会長／モーリ）
□実行委員長兼プロデューサー：寺嶋郁夫（千代田商事㈱代表／NPO法人柏ソーシャルキャピタル協会理事長 ）
□事務局長：亀岡浩美
□事務局次長：小林直毅（いしど画材）
□ディレクター：風澤俊一・秦　明生・寺前好人・住吉慶太

Event

かしわ街ごとキッザニア

かしわ街ごとキッザニア 2013.8

元気な街・柏を発信するイベントとして企画された「かしわ街ごとキッザニア」は、キッザニアの協力のもと実現した、全国的にも珍しい催しです。柏市役所が事務局を務め、参画した企業や店舗は170以上。まさに官民一体の大プロジェクトで、参加した小学生はなんと約1500名。商店や百貨店、レストランや銀行など、さまざまな企業や店舗を舞台に、子どもたちは、はつらつと楽しく様々な仕事を体験しました。当日はあいにくの小雨模様でしたが、柏の街は熱気に包まれ、熱い1日となりました。10時のオープニングセレモニーでは秋山市長の挨拶、キッザニアドリームカンパニーのダンスショーなども披露されました。

1日市長や消防署などの仕事体験もありました

セレモニーを盛り上げてくれたキッザニアドリームカンパニーの皆さま

二番街でも子どもたちがお仕事体験

○モンテローザ
お客様の注文を受けたり、料理をサービスしたりと大活躍。心配そうに見守る保護者の方も、ホッと胸をなでおろしたことでしょう。

○KEIHOKU
店舗前でパンの袋詰めをしたり、試食販売を担当しました。最初は少し緊張気味でしたが、声を出して、お客様を誘導できました。

○丸井柏店
挨拶の仕方や笑顔での接客方法などの練習を行った後、いざ店頭へ。入口でお客様への挨拶などを行いましたが、みんな元気いっぱいで、いきいきと輝いていましたね。

○野村證券
セミナールームに集合して、各国の通貨や輸入、税金についての知識などを、ゲーム感覚で勉強しました。大人顔負けの知識を披露してくれるお子様が多くて、びっくり！

○ドン・キホーテ
店内で研修を受けた後、店頭に立ってチラシ配りや商品販売を体験しました。お客様にチラシを受け取ってもらうのは、なかなか大変でしたね！

KASHIWA WHISKY FORUM2013

「柏をウイスキーのまちに。」をテーマに開催されているこのフォーラムは、2013年で3回目を迎えました。柏市にはニッカウヰスキーの最大のボトリング工場があることをご存じでしたか？ 同社の創業者である竹鶴政孝氏の名前を冠した「竹鶴」は、何度も世界最高賞を受賞している名酒ですが、実は柏市の地下水でアルコール調整をされ、世界へ出荷されているのです。世界に誇るウイスキーが生まれる街・柏。もっともっと、ウイスキーを知って、好きになりたいですね。

【ニッカウヰスキー柏工場】
ウイスキー、焼酎、缶チューハイ・カクテル等のニッカ最大の総合パッケージング工場です。通常工場見学等は行われていませんが、年に１回地域向けの感謝祭が催されます。
柏市増尾字松山 967

日本バーテンダー協会　東葛支部主催

2009年の秋にスタートしたグルメイベント「ユルベルトKASHIWAX」。第8回は2013年10月6日・7日に開催されました。今回は柏在住の大学生、鈴木友香理さんと矢澤亜美さんに、このイベントを体験していただきました。

お腹のベルトをゆるめて柏のまちを食べ歩こう！

"お腹のベルトをゆるめる"からネーミングされたこの催しは、今回参加店舗が100軒を超え、食べ歩きイベントとしては関東でも最大級の規模になりました。参加者は事前に5枚綴りのユルベルト回数券を購入（当日店舗での購入も可能）。チケット1枚と交換に、この日のために各店舗が用意したオリジナルメニューとドリンクが提供されます。チケット1枚でお店の自慢料理を気軽に楽しめるというコンセプトが、普段入ったことのない店舗に足を運ぶ機会となり、まちの新たな発見ができるイベントになっています。回数券は5枚綴りで前売り3600円、当日4000円（それぞれ寄付金100円含）。かしわインフォメーションセンターや参加店舗の店頭で販売されます。

1店舗目　モダンタイムス

オリジナルの生麺と季節の食材を贅沢に使ったパスタ料理が好評の柏の老舗イタリアン。ユルベルト参加店の中でも太っ腹のボリュームとサービス精神で当日は毎回行列ができる人気のお店。今回のユルベルトの2日間は回数券対応のイベントメニューのみと気合も十分です。回数券1枚で「サーモンマリネのサラダ仕立て・生麺使用の4種から選べるパスタ・ドリンク」のゴージャスな内容に、「ここだけでもお腹が満足」とファミリーにも大好評でした。「ユルベルトはお祭りなので、赤字覚悟の激安でのご提供です」と店主のコメント。

●イタリア料理 モダンタイムス
柏4-5-24 第二京北ビル 1F
☎ 04-7163-2528　営 11:00～21:30
休 無休（元旦除く）

□ユルベルトメニュー料理
サーモンマリネのサラダ仕立て、生麺使用の４種から選べるパスタ、ドリンクのセット。ドリンクは、エビスビール、ワイン、手作りのフルーツカクテルなど充実しています。

使い残ったら「あとベルト」

回数券購入時にもらえる冊子ユルベルトMAP。参加店舗が写真入りで紹介されています。ユルベルト2日間で未使用のチケットがあった場合は、後日（2013年は10月8日〜14日まで）、対象店舗で金券として支払いに利用できる「あとベルト」という仕組みがあります。

2店舗目　和香（のどか）

●和香（のどか）柏東口店　柏4-5-24第二京北ビル3F
☎04-7160-1301　営11:00〜15:30（最終入店14:30）17:00〜23:00（最終入店22:00）　休 無休

板前が腕をふるう手の込んだ日本料理をベースに、昼席夜席ともにアレンジを柔軟に利かせたコース料理が主体の和食店。産地直送の旬の魚と、根戸の自社農場で毎朝収獲した野菜をふんだんに使っています。ユルベルト対象メニューはお酒に合う一品料理を3種のせた一皿。ドリンクは日本酒八海山や麦焼酎佐藤など、銘柄も揃えて提供しています。お子様献立も用意されていました。

「肉もお魚もやわらかくて口当たりがよく、優しい味わいでした」

「柏の会席料理のお店に来られて大人の落ち着いた雰囲気を味わいました」

□ユルベルトメニュー料理
柏産の幻霜ポークとローズポークの角煮、骨まで食べられる秋刀魚時雨煮、じゃが芋のシーザーサラダの三品一皿とドリンクのセットです。

3店舗目　YOL Cafe Frosch

「交流」と「発信」をコンセプトに、地域で働く仲間が「曜日限定店長」というスタイルで企画運営するカフェバー。今回のユルベルトでは沼南の若手農家が企画した「農民バル」から新鮮なサラダのメニューと地ビールを提供。2日目はクロッキー（速写会）を来店者と楽しむクロッキーカフェを開催。そのユニークなスタイルは、老若男女を問わず幅広いオープンな交流の場として賑わいを見せていました。

●YOL Cafe Frosch
柏2-5-9 ニックハイム柏 1F
☎04-7100-4100　営11:00〜24:00
休 無休

「もうすぐ20歳になるので、今度はお酒を飲みに来てみたいですね」

「カブは甘く、生の春菊は食べたのは初めてでしたが新鮮でおいしかったです」

□ユルベルトメニュー料理
新鮮採れたての春菊とカブのサラダとさつま芋のマッシュサラダのペア。ドリンクは地ビール3種より選びます。

体験大学生

□鈴木友香理さん
「柏に住んでいても柏駅を少し離れると知らないところが多く、日頃入ったことのないお店にも、こんなイベントなら気軽に入れていいなと思いました」

□矢澤亜美さん
「柏はデパートのレストランなどしか利用したことがなかったので、今回このイベントに参加してみて、利用してみたいお店がたくさんあることを知りました」

柏

ア・ラ・カ・ル・ト

2012年度のJR柏駅の乗降客数は1日平均11万9000人。これは全国で26位、千葉県内では船橋駅に次いで2位の多さです。そんな賑わいのあるまち柏駅東口エリアの、知っているようで知らないスポットをご紹介しましょう。

ハックルベリーブックス

大型書店がひしめく柏駅東口エリアで、異彩を放つ本のスポットが「ハックルベリーブックス」。子どもと子どもをとりまく生活・自然をテーマにした本と雑貨のセレクトショップで、アットホームな店内には、思わず手にとってしまう素敵な本が並んでいます。月に1回、乳幼児向けのおはなし会を開催するほか、英語レッスンや親子ヨガなどのお教室も開かれています。2階はレンタルスペースになっていて、展示イベントやサークル活動などに利用されています。年に2回程度、「本まっち柏」という軒先ブックマーケットを企画・運営しているので、足を運んでみてはいかが? 時々、ふくろう(本物)のフーちゃんが店にいます。

柏市柏3-8-3
04-7100-8946
営 10:30～暗くなるまで 休 火曜

コワーキングスペースNOB

「仕事は1人でするもの、企業単位でするものという概念ではなく、様々な人々が集い、業種の壁を越えてコミュニケーションをすることにより、ノウハウを共有し、新しいアイデアを生みだす。そういうコラボレーションを活性化していく新しい働き方が"コワーキング"です」と語るのは運営スタッフの油原祐貴さん。2013年に誕生したこの空間は、単なるスペースのレンタルに止まらず、一緒に地域の課題を見つけて解決する仲間をつくったり、共に学び成長する創造ステーション。常にイベントなども行いながら、箱ものに止まらず、対話を育てていく場づくりを目指しています。利用方法等はHPでご確認を。http://nbob.jp

柏市東上町2-28第1水戸屋ビル3階
04-7197-5600
営 9:00～22:00(日祝～18:00)

十坪ジム　柏駅東口店

その名の通り10坪(33㎡)ほどのスペースで運営されるトレーニングジム。東京大学小林寛道名誉教授が開発した画期的な認知動作型トレーニングマシンを使い、従来型の有酸素運動や筋トレを目指すのではなく、動作の質を改善し、体の深い部分にある筋肉(体幹深部筋)を鍛え、脳の活性化を図るというもの。テレビでも紹介され、見学者が後をたたないとか。ご紹介の東口店のほか柏に7か所あります。

柏市柏3-5-7オークビル2階
04-7132-4171(本部)

柏のまちを見守る日本ガーディアン・エンジェルス柏支部

国内で5番目、千葉県初の支部として2002年に誕生した「日本ガーディアン・エンジェルス柏支部」。「DARE TO CARE」(見て見ぬふりをしない)をモットーに繁華街における犯罪防止パトロール、環境美化運動、地域イベントへの参加など様々な活動を展開する、柏のまちを守る精鋭集団です。市役所と一緒に"落書きやめさせ隊"も結成し、落書き消しやビラ剥がしも行っています。メンバーは小学生から熟年までと幅広く、随時仲間も募集中!

info@guardianangels.or.jp

柏東口エリアでは、ダブルデッキやウッドデッキを使用した催しが多彩

ヒカリデッキかしわ2013

ヒカリデッキかしわ 2013 実行委員会は、"元気な街・柏"を発信する事業の一環として、「プロジェクションマッピング(建物等に映像を映し出す技術)」を使ったイベントを2013年12月20日～22日にダブルデッキで開催しました。そごう柏店の壁面に合わせてプログラミングされたオリジナル映像を投射したこの催しは、投影の高さ58.2mという最大級の舞台で、素晴らしいクリエイターたちが競演するというもの。事前エントリー制という方法で、多くの方に光の感動を与えてくれました。

Colum

ペデストリアンデッキ物語

ペデストリアンデッキ(pedestrian deck)は、高架などで車道から立体的に分離した歩行者専用通路のことで、「歩行者回廊」「公共歩廊」などといわれています(和製英語です)。このペデストリアンデッキが日本に初めて登場したのが柏駅東口で、1973年にそごう柏店開店と同時期に、初の試みとして作られました。柏市では、これを愛称として"ダブルデッキ"と呼ぶのが一般的。その理由は定かではありませんが、そごう本館とスカイプラザをつなぐデッキを道路から見上げると、そこには「ダブルデッキ　竣工昭和48年9月30日」と書かれたプレートがはめ込まれています。

柏二番街商店会全加盟店舗一覧

■共同ビルサンシャ(サンシャビル)　柏1-2-35

B1F	ラケットショップキャビン柏店	04-7166-7756
1F	AMO'S STYLE(アモスタイル)柏梅林堂店	04-7168-8051
1F	富士そば柏店	04-7166-1366
1F	モバワン	04-7165-8566
2F	中華佳佳苑	04-7128-6625

■柏グランド東京会館　柏1-2-33

1F	マツモトキヨシ柏二番街店	04-7168-2122
2F	カラオケマック柏店	04-7163-0070
2F	まんが@カフェGeraGera柏店	04-7162-4087

■KEIHOKUビル　柏1-4-3

B1F	モンテローザ	04-7166-2611
1F	KEIHOKU柏店	04-7166-1191
1F	新生銀行柏支店	04-7168-5655 0120-456-007
2F	黄金の蔵ジパング柏東口店	04-7160-2250
2F	まんがランド柏店	04-7162-2100
6F	京北ホール	04-7163-8672

■シマダビル 柏1-2-31

1F	シマダ時計店	04-7167-3414
1F	マクドナルド柏店	04-7163-6520

■新星堂ビル　柏1-2-31

B1	TSUTAYA柏駅前店	04-7168-9101
1F	サンドラッグ	04-7160-3375
2F	新星堂カルチェ5柏店CD売場	04-7164-8760
2F	銀座山野楽器サウンドクルー柏	04-7164-8770
3･4F	新星堂カルチェ5柏店書籍売場	04-7164-8551

■いしど画材ビル　柏1-4-5

B1F	サブティベバーズ	04-7165-1515
B1F	949 KUSHIKYU(くしきゅう)柏東口店	04-7166-7094
1F	ジュエリーツツミ	04-7162-2103
1F	ABC-MART 柏店	04-7165-0802
2F	語らい処　竺和民柏東口二番街店	04-7160-2871
3F	MEN'S TBC柏店	04-7165-1211
3F	ふりそで工房	04-7168-2350
4F	いしど画材	04-7167-1410
4F	柏二番街商店会	04-7167-3131

■谷川ビル　柏1-2-7

1~2F	PIA柏店(スロット館)	04-7162-1706

■システムランドビル 柏1-2-8

B1~1F	PIA柏店(パチンコ館)	04-7162-1706
2F	丸亀製麺柏駅南口店	04-7164-5578
2F	ドコモショップ柏駅南口店	04-7168-6200
3F	サカゼン(紳士服)	04-7165-1641

■J･Yビル 柏1-2-27

1F	セブンイレブン柏駅南口店	04-7164-7011
2F	サイゼリヤ柏南口店	04-7165-0231

■長崎屋共同ビル　柏1-3-1

1F~3F	ドン･キホーテ柏駅前店	04-7162-7811
B1F	パチンコ楽園柏店	04-7165-8282
1F	家相建築専門工務店(株)成島組	04-7164-7361
2F	パーラーナルシマ	04-7164-9981
5F	吉田不動産(株)	04-7164-4071

■ニューサンキ　柏1-4-7　04-7164-3505

■丸井柏店　柏1-1-11　04-7163-0101

■野村證券柏支店　柏1-4-26　04-7163-2011

このガイドブック制作にかかわった人たち(敬称略)

制作委員会／

委員長　石戸　新一郎(商店街振興組合　柏三番街商店会　理事長)

事務局　小林　直毅(有限会社いしど画材)

事務局　矢沢　希久子(商店街振興組合　柏二番街商店会　事務局)

Direction／小田　麻子　Design／平野　徹

Writing／池田　幸栄、小田　麻子、河野　優子、加藤　良子、櫻井麻紀子

Photo／田中　博

Illustration／長瀬　えい子

Print／(有)トータルマインド

※この冊子の情報は2014年1月20日現在のものです。
掲載内容の変更につきましてはご了承ください。

発行:商店会振興組合　柏三番街商店会
電話:04-7167-3131
URL　http://www.kasiwa-nibangai.com

柏二番街商店会